



## R5 年度(2023) 研究授業指導案集

### 目 次

- |   |     |
|---|-----|
| 1. 第1学年 国語科「すきなきょうかはなあに」                | P1  |
| 2. 第2学年 生活科「町たんけん1<br>ーみんなでつかう場しょへ行こうー」 | P14 |
| 3. 第3学年 算数科「調べたことをグラフや表に整理しよう」          | P26 |
| 4. 第4学年 体育科「高とび」                        | P37 |
| 5. 第5学年 社会科「高い土地のくらし」                   | P50 |
| 6. 第6学年 総合的な学習の時間「白浜へGO！」               | P58 |



大阪市立滝川小学校



## 第1学年 国語科学習指導案

指導者 西村 真理子・藤原 彩奈

1. 日 時 令和5年11月22日（水）第4時間目（11:40～12:25）1A 本時①  
第5時間目（13:25～14:10）1B 本時②

2. 学年・組 第1学年A組（在籍32名）

3. 第1学年B組（在籍32名）

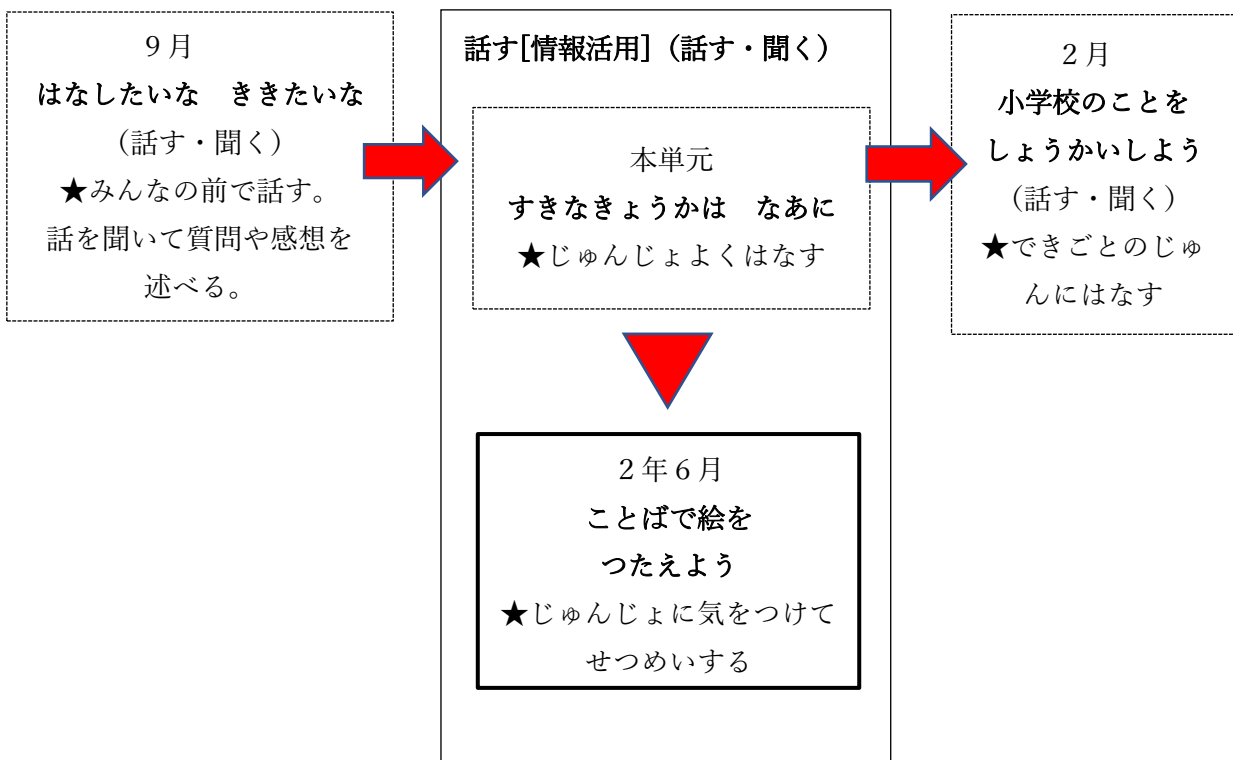
4. 単元名 すきな きょうかは なあに（東京書籍 1年）

【学習指導要領コード】 82102A3211200000 82102A3121000000

### 5. 単元の目標

相手に伝わるように、話す事柄の順序を考え、声の大きさや速などを工夫して話すことができる。

### 6. 単元間の関連



本単元は、「話すこと・聞くこと」領域の「話す（情報活用）」系統に位置付けられる。これまでに児童は、9月「はなしたいな ききたいな」において、簡単な話をみんなの前で話したり、友だちの話を聞いて感想や質問を述べたりすることを経験している。聞き手に届ける声の大きさや姿勢等、気をつけたことを想起させ、活用させたい。本単元では、話すことを考える際に、対話活動を設定している。10月「なにに見えるかな」において、互いに受け止めながら話し合うことを学習したことを想起させるようにしたい。

なお、本単元の学習は、同学年同系統の２月「小学校のことをしょうかいしよう」において、小学校で体験したことについて紹介する順序を考えて話す学習をする際に活用できる。前後の単元とのつながりや同領域、同系統の学習内容を押さえたうえで学習に取り組ませたい。

## 7. 評価規準

知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア</li> <li>・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア</li> </ul> <b>82102A3121000000</b>
思考力・判断力・表現力	<p>◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、話す事柄の順序を考えている。A(1)イ</p> <b>82102A3211200000</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。A(1)ウ</li> <li>・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。B(1)ウ</li> </ul>
主体的に学びに向かう力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、相手に伝わるように、話す事柄の順序を考え、みんなの前で説明しようとしている。</li> </ul>

## 8. 付けたい言葉の力と単元でそれにふさわしい言語活動

本単元の重点指導事項は、学習指導要領における【思考力・判断力・表現力等】の「A 話すこと・聞くこと」(1) イ「相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。」である。

児童はこれまで、相手との距離によって必要な声の大きさを考えたり、大事なことを落とさないように集中して聞き、グループの人に正しく伝えたりすることを学習してきている。説明文「どうやってみをまもるのかな」「いろいろなふね」においては、事柄ごとに順に説明する文章に触れている。それらの経験を踏まえ、本単元では、話の内容が聞き手に伝わるように、順序を考えて話すことができるようになることをねらいとしている。伝えたい事柄のまとまりを考え、順序に気をつけて話す力を育てたい。

本単元の「言葉の力」は、「じゅんじょよくはなす」と設定している。自分の好きな教科について隣同士で相談したり、写真やイラストを提示しながら紹介したりする場面において、話したいことが複数ある時、「何から話すかを決める」「１つずつ話す」「まとまりを表す言葉を使う」といったことが必要となる。自分が選んだ教科の好きなところを考える時は隣の人とペアになり、対話をする中で詳しく掘り下げ、話す材料を集めていく。その際、思考ツール（ピラミッドチャート・クラゲチャート）を使い、メモに書いたことの中から、自分が一番伝えたいことを決める。まとまりや理由を意識して話す初めての学習であることから、発表の練習の際には、まとまりを表す言葉や理由を表す言葉の使い方を確かめ、メモと組み合わせることで話が完成することを押さえて練習に取り組むことがで

きるようにする。好きな教科について発表した後には、友達からの感想や質問を手がかりに自分の発表を振り返り、よかったことや頑張ったことを確かめさせ、まとまりごとに順序良く話すことのよさを捉えるようにしたい。

## 9. 単元で身に付けたい情報活用スキル

本単元では、以下の情報活用スキルチェック、学習の振り返りの場面に一人一台端末を積極的に活用する。

	情報活用スキル	S（名人級）	A（上級）	B（中級）	C（初級）
整理・分類	整理する	根拠を明確にし、順序立てて分類することができる。(0%)	選択した情報の根拠をまとめることができる。(0%)	必要な情報を整理して、主張を明確にすることができる。(23%)	必要な情報を選択することができる。(77%)
情報編集	スライド形式	サウンド・映像等を貼り付けたり、ハイパーリンクを利用したスライドを作成できる。	スライドレイアウトを選択し、文字・画像・図形表・グラフ等を意図した箇所に自由に配置したスライドを作成できる。	スライドレイアウトを選択し、文字・画像・図形等を配置したスライドを作成できる。	文字や画像を貼り付けたスライドを作成できる。
表現・発信	報告する	定められた条件（時間・方法等）を意識し、相手の状況を判断しながら適切な手段を選んで報告できる。(0%)	伝える相手を意識して、相手の反応を見ながら報告できる。(0%)	相手の方を見て、報告すべきことを順序よく伝えることができる。(27%)	メモに書かれたことを読み上げながら発表することができる。(73%)

## 10. 指導にあたって

本単元は、自分の好きな教科二つをみんなの前で話して紹介するという言語活動である。教科を挙げるだけでなく、理由も話すことで、その教科のどんなところが好きなのかを伝えることができる。ここでは、理由を明らかにしながら、順序よく話すことを重点的に指導して学習活動を進めていきたい。また、相手の話を受け止めるしぐさや、言葉がけを大切にできるように単元を通して指導を重ねたい。

まず第1時（本時①）では、これまでのいろいろな教科の授業の様子を振り返り、児童一人一人が好きな教科への思いを高め、学習課題に関心を持てるようにする。まず、教科書の写真や、時間割、

授業の様子を撮影した写真などを活用して、それぞれの教科の楽しかったことやうれしかったこと、楽しみにしていることなどを振り返るようにする。いろいろな教科への思いが膨らんだところで、教科書の話例に出会わせ、好きな教科について話すことへの意欲に繋げたい。本単元「すきなきょうかはなあに」の目標は、相手に伝わるように、話す事柄の順序を考え、工夫して話すことである。そこで、「教科全部について話すとどれが好きなのかわからない。」などの言葉を引き出し、好きな教科を二つに絞ることを押さえる。その際、タブレット端末上で思考ツールのピラミッドチャート（三段）を活用して、好きな教科を二つに絞り、友達と好きな教科について話し合う場を設けたい。

第2時（本時②）では、自分が選んだ二つの好きな教科について、それぞれの好きな理由を考えるようにする。そこで、思考ツールのクラゲチャートを活用し、前時に友達とやりとりした対話を想起し、二つの好きな教科の理由を整理するようにしたい。クラゲチャートの頭の部分に好きな教科の名前を入力し、クラゲチャートの足の部分に好きな理由となるキーワードを入力する。いくつかの好きな理由の中から、クラスの友達に伝えたい理由を赤丸で囲み、好きな理由を絞るとともにどちらを先に話すか決めるようにする。

第3時では、教科書の話例を参考にして、みんなの前で発表する内容を確かめてスライドを作成する。相手に伝わりやすい発表をするためには、順序よく話すことや、理由を明らかにしながら話すことに加えて、視覚的な面からの手立ても有効である。スライドを作成する際は、その教科が好きな理由がわかるような写真・イラストを選ぶようにする。

第4時では、まとめや理由を表すために使う言葉を確認し、ワークシートを生かして、好きな教科が聞き手に伝わるように話す練習を行う。まとめや理由を意識して話す初めての学習である。練習の際は、児童の実態を踏まえて、グループに分かれて発表練習を行う。スライドを見せながら、ワークシートをもとに、順序・理由を示す言葉を用いて、相手にわかりやすく話すことを意識して練習できるようにしたい。グループで練習に取り組むことで、友達の発表を聞いたり、友達からのアドバイスをもらったりしながら、より良い発表になるよう、必要に応じて自分の話し方を修正することができるようにする。話したいことをワークシートに書いておき、どの子も読みながら話すことができるようにする。

第5時では、全体での交流を行う。前時の練習を活かし、一人ずつ前に出てスライドを大型ディスプレイに映し出しながら発表する。発表を始める前には、これまで行ってきた話し方、聞き方のポイントに加え、相手の発表に対し、受け入れる言葉や質問などを積極的に取り入れながら自分の感じたことを発表できるように確かめてから活動できるようにする。

最後に、第6時では、学習のまとめとして、相手に伝わりやすい話し方について振り返る。まとめを意識した話し方や、順序・理由を示す言葉を用いたり、視覚的なツールを用いたりすることによって、簡潔に・わかりやすく相手に話すことができることを確認し、これからの学習活動に活かしていこうとする意識を高める。

本学年の児童は、「はなしたいな ききたいな」（9月）の学習では、夏休みの思い出発表会を行いしたことや思ったことなどについて、友達の前で話す経験をした。その際、一番伝えたい内容を選んで話すことはできたが、友達の話聞く態度に課題が見られた。また、「サラダでげんき」（10月）の学習では、りっちゃんに教えたい食べ物を紹介するためにピラミッドチャートを活用した。初めて思

考ツールを活用した学習だが、ピラミッドチャートを使って自分の考えを整理することができた。

情報活用スキルチェック（11月7日実施）によると、「分類・整理する」の項目において、23%が「必要な情報を整理して、主張を明確にすることができる。」と回答し、77%が「必要な情報を選択することができる。」と回答している。「報告する」の項目では、「相手の方を見て、報告すべきことを順序よく伝えることができる。」と回答した児童が27%。「メモに書かれたことを読み上げながら発表することができる。」と回答した児童が73%であった。本単元では、必要な情報を選び相手を見て、順序よく話すことができるようにしたい。

本単元では、以下の過程でICTを活用する。

1. 【課題の設定】導入時での資料等提示（大型ディスプレイ）
2. 【情報の収集】写真・イラストを選ぶ（Sky Menu Cloud 発表ノート）
3. 【整理・分析】思考ツール（ピラミッドチャート・クラゲチャート）  
（Sky Menu Cloud 発表ノート）
4. 【表現・発信】スライド作成（Sky Menu Cloud 発表ノート）
5. 【振り返り】情報活用スキルチェック（Google Forms）

## 11. 学習計画（全6時間）

	時	主な学習活動	評価規準	ICT 活用 情報活用 スキル※
つかむ	1  （本時①）	<b>① 好きな教科について発表する計画を立てる。</b> ・いろいろな教科について思い出し、自分の好きな教科について発表するという学習課題をつかむ。 ・教科書をもとに、単元全体の見通しを立てる。 <b>② 自分の好きな教科を二つ選び、友達に話す。</b> ・思考ツールのピラミッドチャートを活用し、ペアで交流する。	<b>【知・技】</b> ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア	・デジタル教科書 ・IWB  <b>※情報の整理・分類（整理する）</b> ・Sky Menu Cloud（発表ノート） ピラミッドチャート  ・Google classroom（Google Forms）
取り組む	2  （本時②）	<b>③ 友達とのやり取りを通して、みんなの前で話すことを考える。</b> ・思考ツールのクラゲチャートを活用し、ペアで交流しながら、好きな教科とその理由を明確にする。 ・話をつなぐ言葉やしぐさを使いながら、友達の話聞くよう意識する。 例：○うけとめることば ○うけとめるしぐさ ○しつもん ・友達の話やクラゲチャートをもとに、話すことを決める。	<b>【思・判・表】</b> ◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、話す事柄の順序を考えている。A(1)イ  <b>【知・技】</b> ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	<b>※情報の整理・分類（整理する）</b> ・Sky Menu Cloud（発表ノート） クラゲチャート  ・Google classroom（Google Forms）

	3	<p>④ 教科書の話例を参考にして、みんなの前で発表する内容を確認、スライドを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話すことをワークシートにまとめる。</li> <li>・伝えたいことがより分かりやすくなるような写真やイラストを選ぶ。</li> </ul>	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。</li> </ul> <p>B(1)ウ</p>	<p>※情報編集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Sky Menu Cloud (発表ノート)</li> </ul>
	4	<p>⑤ みんなの前で話すことを確認、話す練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わけをはなす言葉を使う。「～からです。」</li> <li>・生活班でグループを作り、発表練習をする。</li> <li>・友達の発表を聞き、グループ内で交流しながら、より良い発表となるよう、必要に応じて話すことを修正する。</li> </ul>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア</li> </ul> <p>【思・判・表】</p> <p>◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、話す事柄の順序を考えている。A(1)イ</p>	<p>※プレゼンテーション (報告する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Sky Menu Cloud (発表ノート)</li> </ul>
	5	<p>⑥ 練習を生かして、順序に気を付けながらみんなの前で話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の際、友達の話を聞いて感じたことを共有したり、質問したりする時間を設ける。</li> </ul>	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。A(1)ウ</li> </ul>	
振り返る	6	<p>⑦ 単元の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習を振り返り、今後の学習活動で活用することへの意識を持つ。</li> </ul>	<p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、相手に伝わるように、話す事柄の順序を考え、みんなの前で説明しようとしている。</li> </ul>	<p>※表現・発信 (報告する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Sky Menu Cloud (発表ノート)</li> <li>・ スクールライフノート</li> </ul>

## 11- I 本時の学習（1/6）

### （1） 本時の目標

学習課題をつかみ、自分の好きな教科について考え、選ぶことができる。

### （2） 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準等
1. これまでの学習を思い出し、本時のめあてを確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで学習中に撮影した写真や時間割などを手がかりに、各教科の学習で楽しかったことや好きなことを想起できるようにする。</li> <li>・本時の情報活用スキルチェックを確認できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IWB</li> <li>・ Power Point (自作)</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> すきなきょうかについて はっぴょうする けいかくを たてよう。 </div>		
2. 好きな教科を選ぶ。 ・各教科で楽しかったこと、おもしろかったこと、好きな活動について話し合ったことをもとにピラミッドチャートを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末に配付したピラミッドチャートを活用して好きな教科を選ぶようにする。</li> <li>・ピラミッドチャートの上段に、一番好きな教科を入れるようにする。</li> <li>・好きな教科を絞るときに気をつけることを助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Sky Menu Cloud (発表ノート)</li> <li>・ ピラミッドチャート</li> </ul>
3. 選んだ好きな教科についてペアで伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピラミッドチャートを使って自分が決めた好きな教科について話すように伝える。</li> <li>・友達とやりとりを行う中で、話をつなぐ言葉やしぐさを意識できるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・～なんだね。    ・～っていいよね。</li> <li>・なるほど。    ・わかる。    ・わたしも。</li> <li>・あい手の目を見て    ・うなずく    ・えがお</li> </ul> </div>	<p><b>【知・技】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア</li> </ul> <p><b>※情報の整理・分類 (整理する)</b></p>
4. 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。 ・情報活用スキルチェックを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだ二つの教科が好きな理由を考えることを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Google classroom (Google Forms)</li> </ul>

<板書計画>

十一月二十二日

すきなきようかはなあに

め

すきなきようかについて、はっぴようするけいかくをたてよう。

こくご

・音どく  
・かん字  
・としよ

さんすう

・けいさん  
・かたちあそび

生かつ

・あきみつけ  
・いろ水あそび

音がく

・けんばんハーモニカ  
・うた

ずこう

・はこあそび  
・いろぬり  
・ねん土

たいいく

・ボール  
・水えい  
・てつぼう  
・なわとび

どうとく

・気もちを  
・かんがえる

はなしをつなぐことは

うなんだね。  
なるほど。  
ほかには。

うっていいよね。  
わかる。  
どうして。

わたしも。

## 11-Ⅱ 本時の学習（2/6）

### （1）本時の目標

友達とのやりとりを通して、みんなの前で話すことを考えることができる。

### （2）本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準等
1. 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に選んだ二つの教科を確かめるようにする。</li> <li>・本時の情報活用スキルチェックを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IWB</li> <li>・ Power Point (自作)</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">           すきなきょうか について はなすことを かんがえよう。         </div>		
2. 自分が選んだ二つの教科が好きな理由を考える。  3. 好きな教科とその理由について隣どうして話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末に配付したクラゲチャートを活用して理由を考えるようにする。</li> <li>・好きな教科の理由を短い言葉で入力するように声をかける。</li> <li>・友達とやりとりを行う中で話をつなぐ言葉やしぐさを意識できるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なるほど。 ・いいね。 ・～っていいよね。</li> <li>・わかる。 ・わたしもだよ。</li> <li>・うなずく ・えがお</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Sky Menu Cloud (発表ノート)</li> <li>・ クラゲチャート</li> </ul> <p><b>※情報の整理・分類 (整理する)</b></p>
4. 好きな教科の理由を選び、ワークシートに書く。 ・はじめに話す教科に印をつける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の目を見ながら、話すように声かけを行う。</li> <li>・友達とのやりとりの中で話した理由を想起し、選ぶように助言する。</li> <li>・教科が好きな理由を選び、クラゲチャートの足の部分を赤ペンで囲む。</li> <li>・初めにどちらの教科から話すか考えるようにする。</li> </ul>	<p><b>【知・技】</b>            ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア</p> <p><b>【思・判・表】</b>            ◎「話すこと・聞くこと」において、相手につたわるように、話す事柄の順序を考えている。A(1)イ</p>
5. 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。 ・情報活用スキルチェックを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだ二つの教科を紹介するためのスライドを作成することを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Google classroom (Google Forms)</li> </ul>

## 12. 板書計画

十一月二十二日

すぎなきようかは なあに  
のすぎな きようかについて  
はなすことを かんがえよう。

クラゲ

ピラミッド

クラゲ

すぎなきようかは なあに。

ぼく  
わたし

がすぎなのはどうして。

からだよ。

うけとめる

いいね。

なんだね。

わかる。

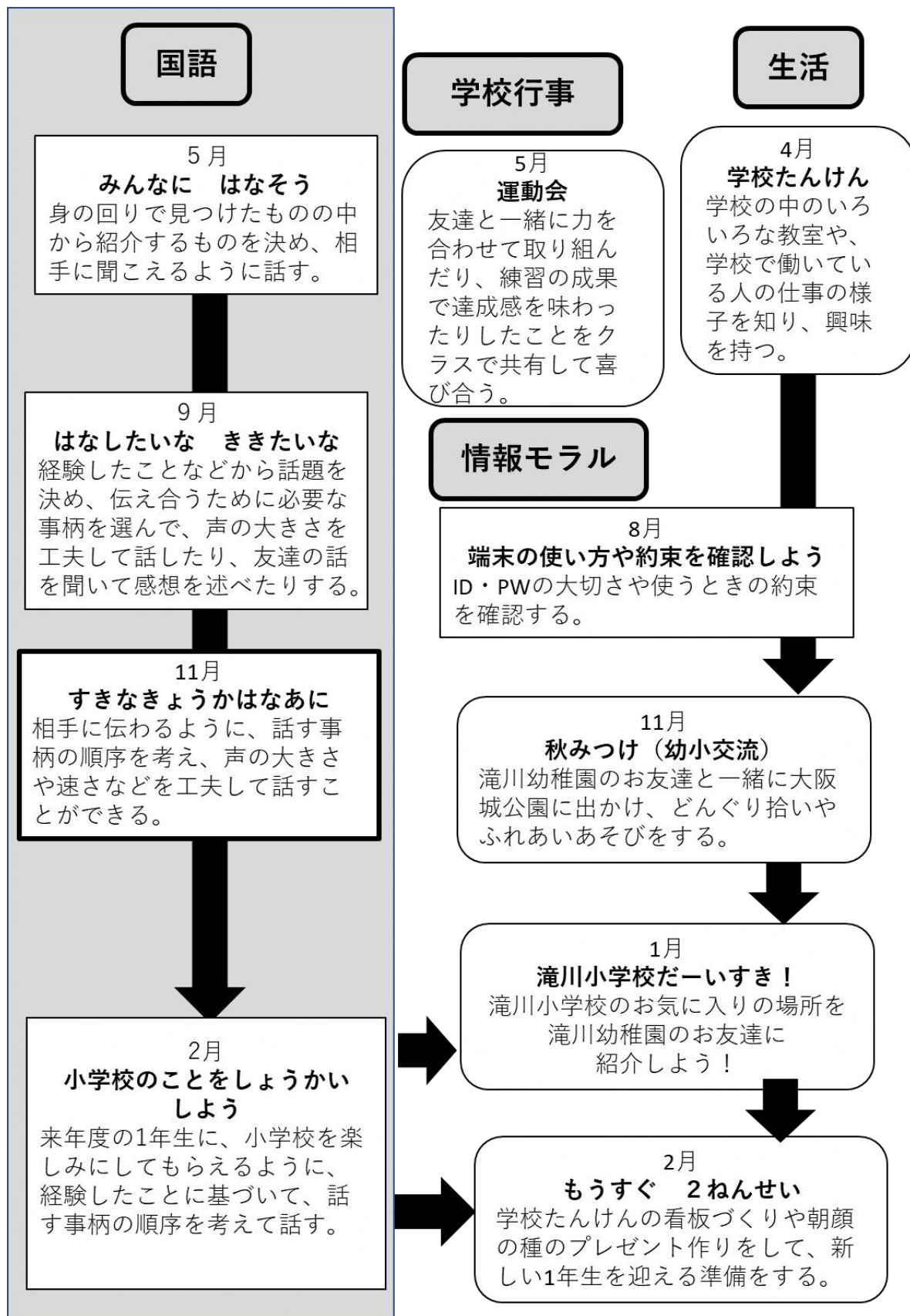
なるほど。

わたしも。

しつもんする

ぼくの すきな きようかに ついて  
はなします。  
一つ目は、たいいんです。からだを  
うごかす ことが、すきだからです。  
二つ目は、こくごです。おはなしを  
音ごくしたり、かん字を、おぼえたり  
する  
ことが、たのしいからです。

※1年 生活科「たきがわ小 だーいすき！」との関連



### 13. 授業を終えて

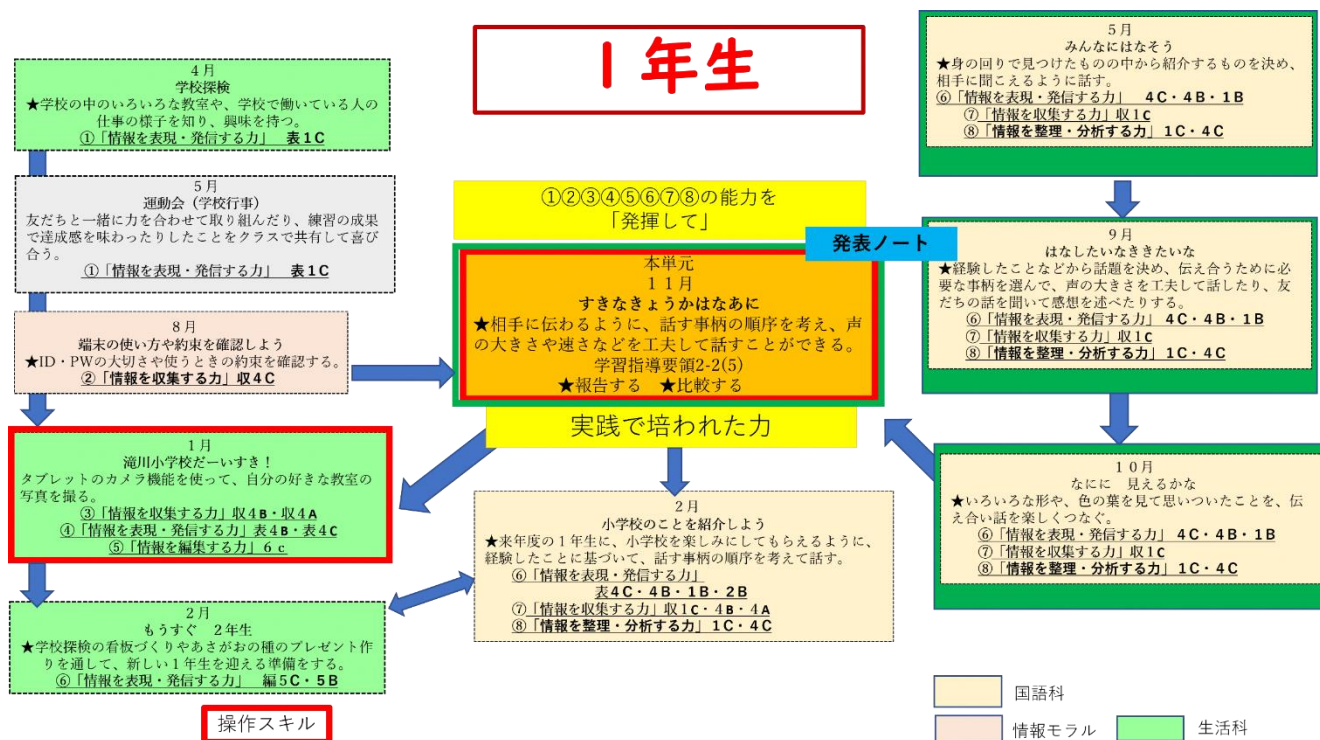
#### 児童の意識の変容

	情報活用スキル	S (名人級)	A (上級)	B (中級)	C (初級)
整理・分類	整理する	根拠を明確にし、順序立てて分類することができる。(0%) ⇒0%	選択した情報の根拠をまとめることができる。(0%) ⇒0%	必要な情報を整理して、主張を明確にすることができる。(23%) ⇒92%	必要な情報を選択することができる。(77%) ⇒7%
情報編集	スライド形式	サウンド・映像等を貼り付けたり、ハイパーリンクを利用したスライドを作成できる。 ⇒0%	スライドレイアウトを選択し、文字・画像・図形表・グラフ等を意図した箇所に自由に配置したスライドを作成できる。 ⇒0%	スライドレイアウトを選択し、文字・画像・図形等を配置したスライドを作成できる。 ⇒0%	文字や画像を貼り付けたスライドを作成できる。 ⇒100%
表現・発信	報告する	定められた条件(時間・方法等)を意識し、相手の状況を判断しながら適切な手段を選んで報告できる。(0%) ⇒0%	伝える相手を意識して、相手の反応を見ながら報告できる。(0%) ⇒0%	相手の方を見て、報告すべきことを順序よく伝えることができる。(27%) ⇒0%	メモに書かれたことを読み上げながら発表することができる。(73%) ⇒100%

最初は情報スキルの意味をよく理解できていない児童が多かったが、授業を行っていく中でスキルの意味を理解し自分のスキルを見直すことができた。

## 14. 情報活用能力の育成と発揮

これまでに育成されてきた本単元で必要な情報活用能力の育成は、以下のものであった。



## 第2学年 生活科学学習指導案

指導者 藤原 愛・前田 真実

1. 日 時 令和5年9月21日（木）第4時間目（11:40～12:25）2B 本時①  
第5時間目（13:50～14:35）2A 本時②

2. 学年・組 第2学年A組（在籍 29名）  
第2学年B組（在籍 29名）

3. 単元名 町たんけん1ーみんなで つかう 場しょへ 行こうー  
【学習指導要領コード】 82702A3210000000

### 4. 単元の目標

身近な公共施設を見学したり、施設の人の話を聞いたり、体験したりしながら探検する活動を通して、身の回りにはみんなで使うところやものがあること、それらを支える人がいることや思いに気づき、ルールやマナーを守って利用しようとすることができる。

5. 単元の構成 『町たんけん1ーみんなで つかう 場しょへ 行こうー』  
（日本文教出版 1・2年下）

小単元名	学習内容
1 みんなが つかう 場しょや ものに ついて 考えてみよう (1時間)	地域の公共施設や公共物について知っていること、知りたいことややってみたいことを話し合い、みんなで見学したい場所を話し合って決める。
2 みんなが つかう 場しょへ 行って みよう (5時間)	① 前時を振り返り、活動目的や安全上の注意点などについて確認する。 ② ③公共施設に移動し、見学する。 ④ 見学して見つけた工夫を整理し、共有する。 (本時①) ⑤ 工夫ごとに、なぜその工夫をしているのかを考え、わかったことや疑問を話し合う。
3 もう いちど 行って みよう (4時間)	① 前時を振り返り、活動目的やそのための方法について確認する。 ② ③公共施設に移動し、考えた方法で探検を行う。 ③ 見学して見つけたもの、気付いたこと、思ったことについて振り返り、まとめる。(本時②)
4 たんけんを つたえよう (1時間)	見学・体験などを通して見つけたもの、気付いたこと、思ったことを、隣のクラスに発表して伝える。
5 たんけんを ふりかえろう (1時間)	学習を通して身につけたことやあらためて気付いたこと、これからの生活に生かしていきたいことなどを交流する。

6. 小単元の観点別評価規準【82702A3210000000】

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設や公共物は、みんなで使うものであることに気付いている。</li> <li>・公共施設は、多くの人が利用していることや支えている人がいることに気付いている。</li> <li>・公共施設にはみんなが気持ちよく利用できるようにするためのルールやマナーがあることに気付いている。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設にある様々なものや取り組み、それらを支える人と関わり、そのよさを見つけたり、はたらきをとらえたりしている。</li> <li>・その公共施設のよさやはたらき、支えてくれている人の思いについて考えたり、表現したりしている。</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設やそれを支える人に親しみや愛着をもって、安全に気を付けて正しく利用しようとしている。</li> </ul>

7. 単元で発揮したい情報活用スキル

\* ( ) 内は、取り組み前の達成度を自己評価した数値

	情報活用スキル	S (名人級)	A (上級)	B (中級)	C (初級)
整理・分析	整理する (本時②)	根拠を明確にし、順序立てて整理することができる。 (7%)	順序を考えて情報を整理することができる。 (9%)	情報を内容ごとに整理することができる。 (50%)	必要な情報を選択することができる。 (34%)
	比較する	2つ以上の出所の異なる情報を相違点や共通点について根拠を示して説明することができる。 (5%)	2つ以上の出所の異なる情報を相違点や共通点について説明できる。 (11%)	2つ以上の出所の異なる情報を相違点や共通点を見つけることができる。 (45%)	2つの情報を並べることができる。 (39%)

編集	スライド形式	サウンド・映像等を貼り付けたり、ハイパーリンクを利用したりしたスライドを作成できる。 (2%)	スライドレイアウトを選択し、文字・画像・図形表・グラフ等を意図した箇所に自由に配置したスライドを作成できる。 (12%)	スライドレイアウトを選択し、文字・画像・図形等を配置したスライドを作成できる。 (54%)	文字や画像を貼り付けたスライドを作成できる。 (32%)
	グループディスカッション (本時①)	グループの同意形成を図りながら、結論を見出すことができる。 (12%)	自分や他者の意見を取り入れながら結論へつなげることができる。 (23%)	他者の意見に対応して、自分の意見を言うことができる。 (36%)	課題（テーマ）に沿って自分の意見を言うことができる。 (29%)
表現・発信	プレゼンテーション	視聴者と双方向にコミュニケーションをとりながら発表できる。 (9%)	視聴者の視線・表情・しぐさ等に反応しながら発表できる。 (20%)	聞き手のほうを向いたり、身ぶり手ぶりを入れたりして、気持ちをこめて伝えることができる。 (34%)	スライドや原稿に書かれたことを読み上げながら発表することができる。 (37%)

## 8. 指導に当たって

本単元は、学習指導要領の内容(4)「公共物や公共施設を利用し、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。」を受けて設定したものである。

ここでは、学校外の方も利用する施設である地域の図書館に行って調べる中で、みんなで使うものを大切にできるようにし、公共施設での誰もが気持ちよく使うことができる利用の仕方を考え、正しい利用ができるようにすることをねらいとしている。

地域の図書館は、小さい子どもからお年寄りの方まで幅広い方が利用する場であるため、だれもが利用しやすいように様々な工夫がされている。その工夫について考えることを通して、みんなが利用しやすいよう工夫し支えている人々の存在に気付くとともに、繰り返し見学に行く中で親しみや愛着をもち、ものを大切にして正しく利用しようとする意識を高めることができるようになる。

図書館は児童にとって身近な施設である一方で、校区外の施設であるため、保護者と一緒に行かなければならない。そのため、学んだことを保護者に伝えるよう設定し、学習後も学んだことを保護者と一緒に活用していくことができるようにしたい。

また、本単元は児童が見つけたたり感じたりしたことをもとに一連の学習活動を展開する。児童がとらえた事実について、友達と伝えあって比較したり、これまでに経験したことや学習してきたことと関連付ける言葉がけを行ったり、児童の思考を揺さぶるような問いかけを行ったりすることで、児童の気付きを深めていくことができるようにしたい。

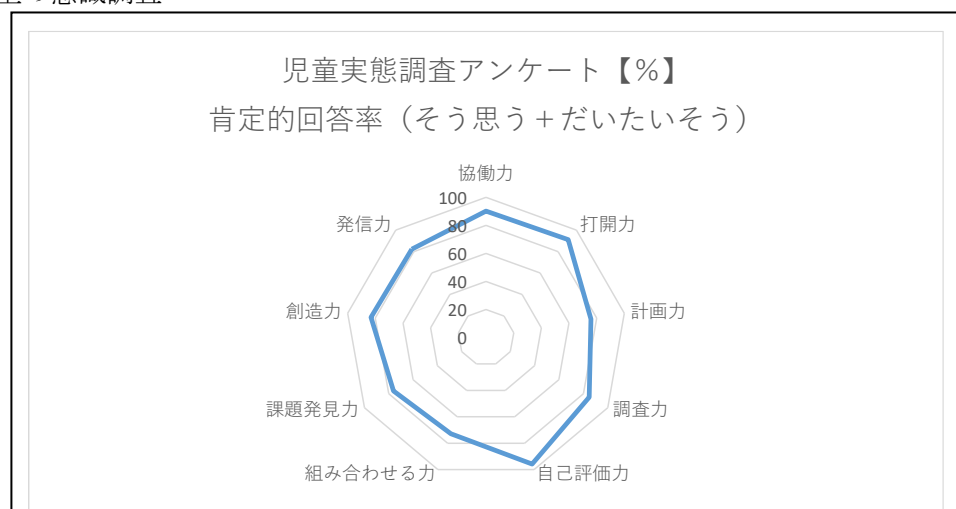
1回目の見学の前にはワークシートを活用し、見学のルールやマナーを確認した後、グループの役割分担を決め、一人ひとりが調べる視点を明らかにする。また、見学後にはワークシートに記述した「見つけたよ!」をもとに、一人ひとりが発表ノートにまとめる。第4時(本時①)では、公共施設である図書館で見つけた「すてき!」「すごい!」を、グループで交流してまとめる。その後、ペアグループや学級全体で伝え合うことによって、これまで知らなかった人・もの・ことに気付いたり、さらに知りたいという思いをもつようにしたい。

2回目の見学では、前時に考えた「さらに知りたいと思ったこと」をもとに、働いている人への質疑応答なども行いながら見学を行う。見学後には、ワークシートに「はたらく人」「つかう人」「つかう人のためのもの」という視点で気付きをまとめるようにする。

第8時(本時②)では、2回目の見学で得られた気付きをグループで交流し、まとめる。3つの視点にそってYチャートに整理することにより、友達の気付きとの共通点や差異点に気づき、自身の考えを広げたり深めたりすることができるようになる。

本学年の児童の学習アンケート(8月28日実施)で得られた結果は、以下のものである。

＊児童の意識調査



1 : と思う 2 : だいたいと思う 3 : あまり思わない 4 : 思わない

(%)

つきたい力	質 問	1	2	3	4
自分から動く力	友だちと協力して学習している。	46	44	7	3
	問題にあきらめずに最後まで取り組んでいる。	66	25	5	4
	次のことを見通して学習に取り組んでいる。	37	39	14	10
学習したことを上手く使う力	調べたいことを色々な方法で調べようとしている。	41	44	12	3
	学習したことで自分ができたこと、できなかったことが分かっている。	68	28	4	0
	学習したことを自分の生活や次の学習にいかそうとしている。	37	36	23	4
最後まで考え続ける力	学習の中で、「ふしぎだな」「なぜ」を見つけようとしている。	46	30	23	0
	理由をはっきりさせて自分の考えをもっている。	46	37	10	5
	相手に伝わるように工夫して話したり、書いたりしている。	39	43	17	0

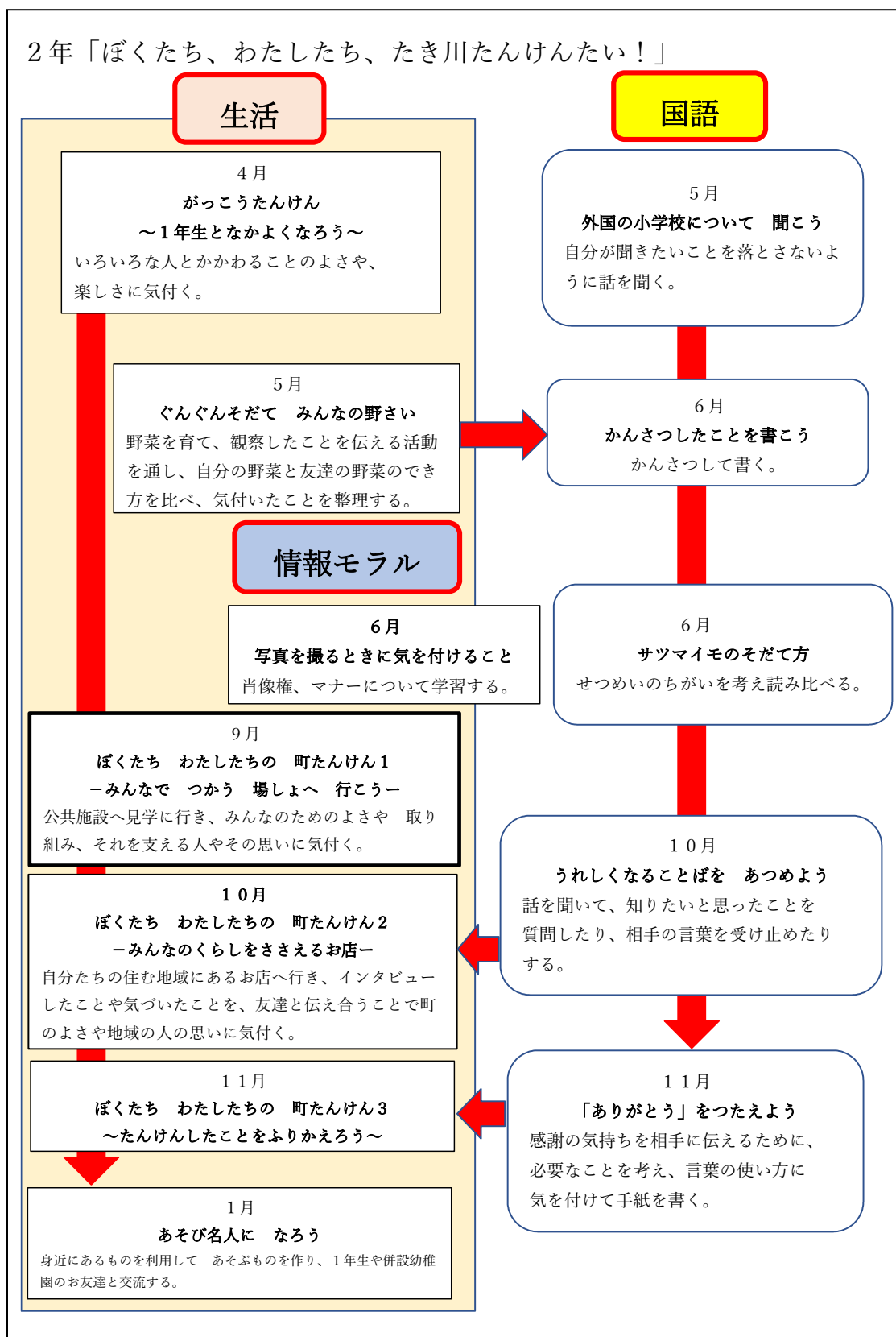
本学年の児童は、学習アンケート（8月28日実施）によると「友達と協力して学習している」に対して90%、「問題にあきらめずに最後まで取り組んでいる」に対して91%、「学習したことで自分ができたこと、できなかったことが分かっている」に対して96%が肯定的回答であった。このように、友達と力を合わせて学習に取り組み、粘り強く課題の解決に取り組む姿勢をみせている児童が多い。しかし、見通しを持って活動に取り組んだり、自分から新たな課題を見つけたりする力は身に付いているとは言えない児童が多数いる。

また、事前の情報活用スキルチェックによると、情報を収集した後、グループで話し合っ友達意見を聞きながらまとめを考えたり、相手を意識して報告したりする力をもっと伸ばしたいと感じている児童が多い。

そこで、本単元では、以下の学習過程で ICT を活用する。

- 1 **【課題の設定】** 導入時での資料等提示（大型プロジェクター）
- 2 **【情報の収集】** 調べる段階での児童用端末のカメラ機能
- 3 **【整理・分析】** 学び合う段階で考えを共有する場面では、見つけた工夫ごとにカードに整理し、思考ツールで共有・整理する。  
(SKY MENU Cloud 発表ノート、Google Jamboard)
- 4 **【表現・発信】** 本単元の終末には、見つけた「すてき・すごい」についてプレゼンテーションにまとめ、図書館のくふうを知って驚いたことや感心したことについて隣のクラスの友達と交流する。  
(SKY MENU Cloud 発表ノート)
- 5 **【振り返り】** 学習を振り返る。  
(Google Forms、スクールライフノート)

## 9. 他教科との関連



## 10. — I 本時の学習 (5/12)

### (1) 本時の目標

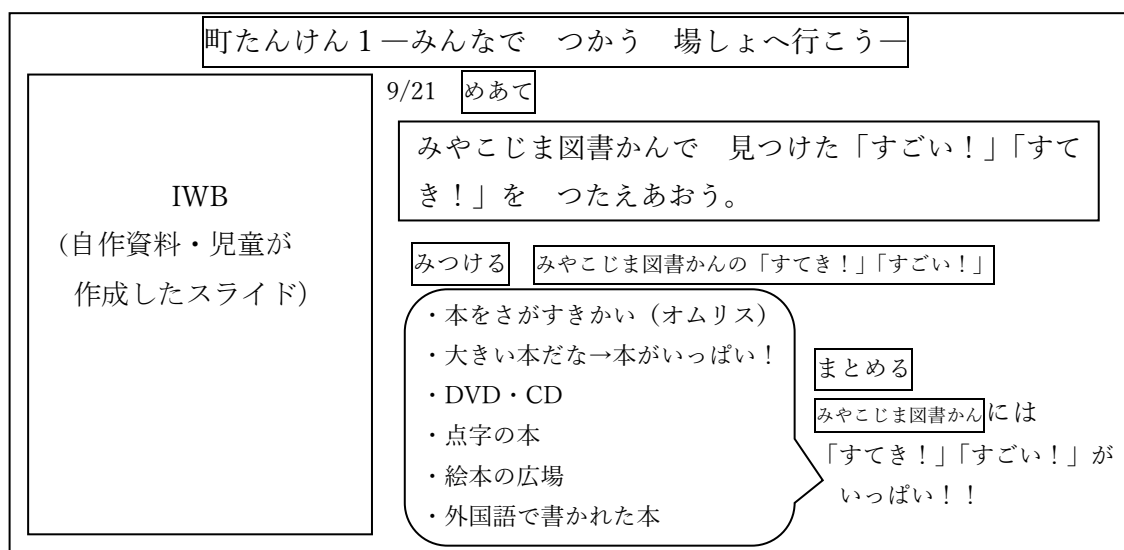
図書館を見学して見つけた「すてき・すごい」を友達と伝え合うことができる。

### (2) 本時の展開

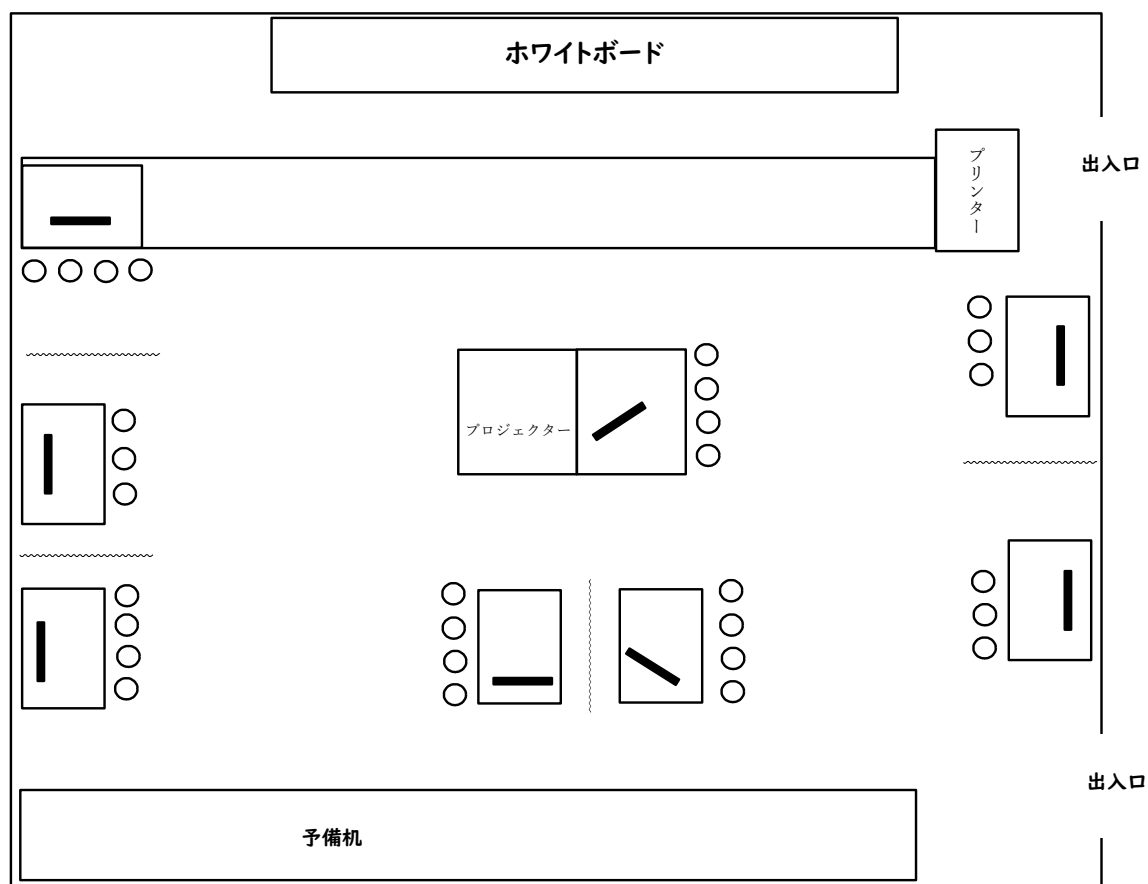
学習活動	指導上の留意点	評価規準等
<b>【課題の設定】</b> ○前時の学習を振り返り、本時の課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学の様子の写真を提示し、これまでの学習をふり返るようにする。</li> <li>・本時の学習計画を伝え、一人ひとりが目指す情報活用スキルのめあてを確認できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IWB</li> <li>・自作資料 (PowerPoint)</li> </ul>
見つけた「すてき!」「すごい!」をつたえあおう。		
<b>【整理・分析】</b> ○図書館で見つけた「すてき!」「すごい!」を、グループで交流する。 ○図書館で見つけた「すてき!」「すごい!」を、グループで発表ノートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学のワークシートを活用するように助言する。</li> <li>・1枚のスライドには、写真1枚と短い文でまとめるようにする。</li> <li>・早くまとめたグループは、発表の練習をするように声をかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IWB</li> <li>・SKY MENU Cloud (発表ノート)</li> </ul>
<b>【表現・発信】</b> ○図書館の「すてき!」「すごい!」について、伝え合う。(ペアグループ→全体)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで伝え合うときには、グループの中で役割を決めて、スムーズに発表ができるようにする。</li> <li>・全体で伝え合うときには、グループでまとめたスライドを大型スクリーンに提示する。</li> <li>・図書館の「すてき!」「すごい!」をキーワードで板書にまとめるようにする。</li> </ul>	<b>【主】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発言内容や記述から「見学を通して公共施設に対する興味・関心を高め、さらに知りたいことや、やってみたいことを見つけ、関わろうとしている。」</li> </ul>
学習目標の確認をする。		

<p>【ふり回り】</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報活用スキルチェック (Google Forms)</li> <li>・本時のふり回り (スクールライフノート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返り、次時に つなげるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Google Forms</li> <li>・スクールライ フノート</li> </ul>
--	--	---

## 板書計画



## 座席配置図



(1) 本時の目標

再度図書館を見学して見つけた「すてき・すごい」を、思考ツールを使って分類・整理することができる。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準等
<b>【課題の設定】</b> ○前時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学の様子の写真を提示し、様々なものの大きさや位置関係、使われ方などを想起するようにする。</li> <li>・本時の学習計画を伝え、各自が目指す情報活用スキルのめあてをもつようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IWB</li> <li>・ 自作資料 (PowerPoint)</li> </ul>
見つけた「すてき!」「すごい!」を せいりしよう。		
<b>【整理・分析】</b> ○図書館で見つけた「すごい・すてき」を「働く人」「使う人」「使う人のためのもの」の3つの視点に沿って、Yチャートにグループで整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学のワークシートを活用し、図書館の「すごい・すてき」を思い起こすようにする。</li> <li>・Yチャートには、短い文でまとめるようにする。</li> <li>・早くまとめたグループは、ペアグループへの発表の練習をするように声をかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Google Jamboard</li> </ul>
<b>【表現・発信】</b> ○「働く人」「使う人」「使う人のためのもの」の3つの視点に沿って、図書館で見つけた「すごい・すてき」について伝え合う。 (ペアグループ→全体)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の考えをわかりやすく可視化して、板書にまとめるようにする。</li> <li>・グループのスライドを提示することで、他のグループの気付きに興味関心を持って聞くことができるようにする。</li> </ul>	<b>【思・判・表】</b> ・発言内容や記述から「公共施設の人・もの・ことについて考え、みんなのためのよさや取り組みがあることに気付く。」
学習目標の確認をする。		
<b>【ふり振り返り】</b> ○本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返り、次時につ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IWB</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報活用スキルチェック (Google Forms)</li> <li>・本時のふり返り (スクールライフノート)</li> </ul>	<p>なげるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Google Forms</li> <li>・スクールライフノート</li> </ul>
--	------------------	--

# 板書計画

町たんけん 1ーみんなで つかう 場しょへ行こうー

IWB (自作資料・児童が作成したスライド)

つかう人のためのもの

- ・本 70000 さい上
- ・オムリス・かく大読書き
- ・へんきやくボックス
- ・いどう図書かん
- ・DVD/CD
- ・点字の本
- ・外国語の本
- ・小さい子よのいす
- ・ふしべーた

- ・12人
- ・やくわり
- 分たん
- ・読み聞かせ

はたらく人

つかう人

9/21

めあて

みやこじま図書かんで見つけた「すてき!」「すごい!」を せいりしよう。

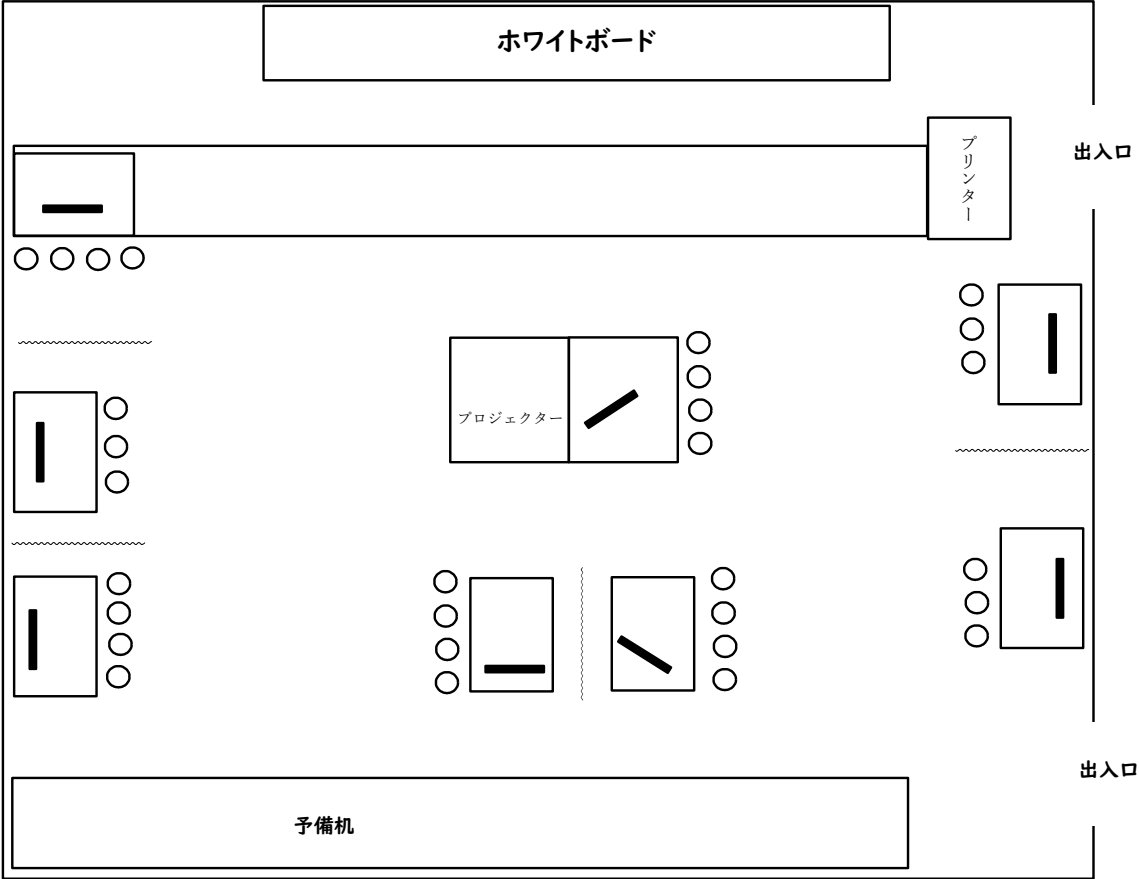
まとめる

・こうきょうしせつではたらく人は、つかう人のことを考えてとり組みをしている。→つかう人のためのもの

・つかう人

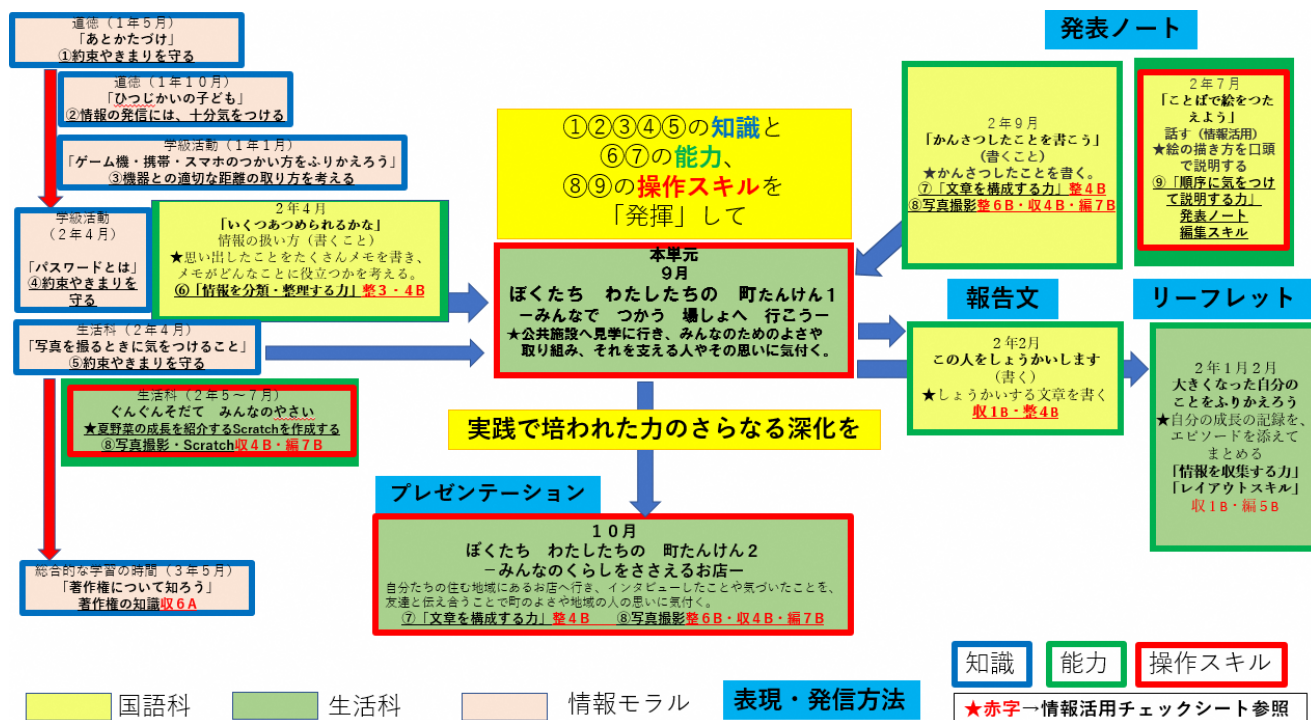
みんなが気もちよくつかうためのルールやマナーが大じ。

# 座席配置図



## 12. 情報活用能力の育成と発揮

本単元で必要な情報活用能力は、以下のように発揮されると考える。



## 第3学年 算数科学習指導案

指導者 稲垣 昭弘 ・ 川村 千夏

3. 日 時 令和5年6月1日（木）第4時間目（11:45～12:25）3B

第5時間目（13:25～14:10）3A

4. 学年・組 第3学年A組（在籍 31名） B組（在籍 31名）

5. 単元名 「調べたことをグラフや表に整理しよう」（日本文教出版 3年上）

【学習指導要領コード】 825023341100000 8250233411200000 8250233412100000

### 4. 単元の目標

表の意味や棒グラフの特徴、用い方を理解し、データを分類整理したり表や棒グラフに表したりよんだりする技能を身につけ、データを整理する観点に着目して表やグラフからデータの特徴や傾向をとらえ説明するとともに、表や棒グラフのよさに気づき、学習したことを生活や今後の学習に活用とする態度を養う。

（知識・技能）

表の意味を理解し、目的に応じてデータを分類整理して表したりよんだりできるとともに、棒グラフの特徴やその用い方を理解し、棒グラフをよんだりかいたりできる。

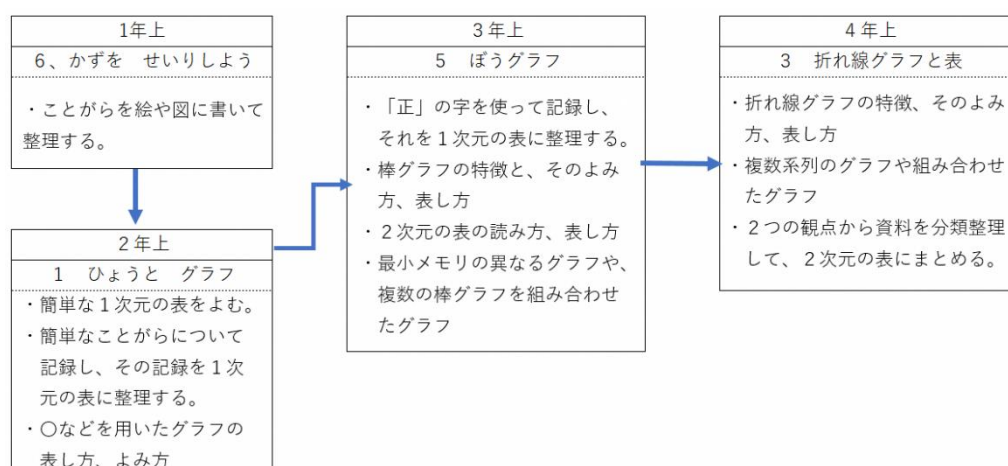
（思考・判断・表現）

データを整理する観点に着目し、資料に落ちや重なりなどの誤りがおきにくいようにくふうしたり、目的にあった目盛りの取り方を選んで棒グラフをかいたりするとともに、表やグラフからデータの特徴や傾向をとらえ説明している。

（主体的に学習に取り組む態度）

データをわかりやすく整理して表や棒グラフに表したり、見いだしたことを表現したりしたことを振り返り、表や棒グラフのよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

### 5. 内容の関連



## 6. 単元の指導計画

	主な算数的活動	主な評価の観点
(1) 整理のしかた (2時間)		
1 ・ 2	スポーツごとにすきな人の数を整理しよう。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すきなスポーツをくふうして記録し、整理する方法を考える。</li> <li>・ 「正」の字を書いて、スポーツごとに、好きな人の数を整理する。</li> <li>・ スポーツごとに、すきな人の数を表にまとめる。</li> </ul>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料を整理して、表にまとめることができる。</li> </ul> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 落ちや重なりがないかに着目して、誤りがおきにくい分類整理の仕方を考えている。</li> </ul>
(2) 数の大きさを表すグラフ (6時間)		
3	ぼうグラフについて調べよう。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「すきなスポーツ調べ」を表した棒グラフの読み方を知る。</li> </ul>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 棒グラフのよみ方を理解している。</li> </ul> <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料を棒グラフに表すよさに気づいている。</li> </ul>
4 ・ 5	ぼうグラフのぼうをならべるじゅんばんについて考えよう。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数の多い順に示した「好きなスポーツ調べ」の棒グラフをよむ。</li> <li>・ 1目盛りが1でない横向きの棒グラフをよむ。</li> </ul>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1目盛りの大きさを知り、棒グラフや横向きの棒グラフを読み取ることができる。</li> </ul> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 67ページの棒グラフとの違いに着目し、数の多い順に示すよさについて考えている。</li> </ul>
6 ・ 7	ぼうグラフのかき方を知ろう。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「乗り物調べ」の結果を棒グラフにかく。</li> <li>・ 棒グラフのかき方をまとめる。</li> </ul>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表に表された数値を棒グラフにかいて表すことができる。</li> </ul> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数値や棒グラフの目盛りのつけ方に着目し、1目盛りの大きさを考えている。</li> </ul>
8	2つのぼうグラフのちがいを調べよう。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目盛りのつけ方が異なる「かりた図かんの数」を表した2つの棒グラフの違いを考える。</li> </ul>	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目盛りの大きさに着目し、目盛りのつけ方が異なる2つの棒グラフを比べ、</li> </ul>

		そのちがいについて考えを説明している。
(3) 表とグラフの見方 (8時間)		
9 ・ 10	3年生全体のことがくらべやすくなるように、2つの表を整理しよう。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>3つの表から、求められた項目の数値をよむ。</li> <li>2次元の表の見方を知る。</li> </ul>	<b>【知・技】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>2次元の表の見方を理解し、項目の数値をよみ取ることができる。</li> </ul> <b>【態度】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>2次元の表に表すよさに気づいている。</li> </ul>
11	ぼうグラフを使って、3年生全体や組ごとのとくちょうを見つけよう。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>2次元の表を、複数の棒グラフを組み合わせたグラフに表す。</li> <li>複数の棒グラフを組み合わせたグラフから、資料の特徴を考える。</li> </ul>	<b>【知・技】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の棒グラフを組み合わせたグラフをよむことができる。</li> </ul> <b>【思・判・表】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の棒グラフを組み合わせたグラフから資料の特徴を考えたり、棒グラフの表し方を変えることで、調べたい特徴がわかりやすくなることを見いだしたりしている。</li> </ul>
12  13  14  15  16	これまでに学習した整理のしかたや表やグラフを使って、調べたことを表そう。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りのことで調べたいことをさがして、調べる。</li> </ul>	<b>【知識】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>調べたい資料を集め、表やグラフに表すことができる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べたことをどのように整理するか考える。 (本時①3B)</li> </ul>	<b>【態度】【思考】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>落ちや重なりがないように、手際よく資料の整理をする方法をくふうしている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>表やグラフを使って、調べたことを表す。 (本時②3A)</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べたことや気付いたことについて話し合い、自分たちの生活を見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データをわかりやすく整理し、表や棒グラフに表したり、見出したことを表現しようとしたりしている。</li> </ul>
(4) たしかめよう (1時間)		
17	これまでの学習内容についてふり返ろう。	

## 7. 評価基準

	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する子供の支援例
知・技	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の落ちや重なりがないことを確かめる方法や棒グラフの目盛りのつけ方、よみ方、2次元の表の見方を十分に理解し、集計に誤りのないこと確かめながら手際よく表にまとめることができる。 【8250233411100000】</li> <li>棒グラフを見て、正しく資料をよみ取り、目的に応じた棒グラフを手際よくかける。 【8250233411200000】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を表にまとめる方法や棒グラフのよみ方、かき方、2次元の表のよみ方を理解し、資料を分類整理して表にまとめることができる。</li> <li>棒グラフを見て特徴をよんだり、目的に応じた目盛りをつけて棒グラフがかけたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな資料を分類した結果を表した表や棒グラフをもとに「どのようなことがわかるのか」を話し合わせる活動を多く経験させる。</li> <li>集計した結果を表やグラフに表す際には、作業ごとに正しく処理されているかを確認しながら取り組ませる。</li> </ul>
思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> <li>落ちや重なりがないように、手際よく資料の整理をする方法をくふうしている。 【8250233412100000】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の整理にあたって落ちや重なりがなく分類整理する方法を自分なりに考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を分類整理するとき「正」の字をかいて、落ちや重なりのない分類整理の仕方を考えさせる。</li> </ul>
態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の内容に応じた観点を決めて、落ちや重なりがないように確かめながら適切に分類整理できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の内容に応じた観点を決めて、自分なりに分類整理することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の内容に応じた観点を指示し、資料を分類整理させる。</li> </ul>

## 8. 単元で発揮したい情報活用スキル

	情報活用スキル	S (名人級)	A (上級)	B (中級)	C (初級)
情報収集	アンケートを行う	アンケートの目的をわかりやすく説明し、お礼を伝えることができる。 (18.6%→20.7%)	答える人がまよったりこまったり、しないような言葉で、アンケートを考えることができる。 (28.8%→46.6%)	結果を数えやすいようにアンケートを考えることができる。 (23.7%→20.7%)	知りたいことを聞くためのアンケートを考えることができる。 (28.8%→13.8%)
整理	分類・整理する	落ちや重なりがないように、手	順序を考えて整理すること	落ちや重なりがなく分類整	「正」の字をかいて整理す

・ 分析		際よく整理することができる。 (20.3%→32.8%)	ができる。 (28.8%→32.6%)	理することができる。 (20.3%→12.1%)	ることができる。 (30.5%→22.4%)
情報 編集	表やグラフの作成	目的に合わせた表やグラフを作成し、自分の生活をふりかえることができる。 (39%→37.9%)	適切な表やグラフを作成することができる。 (33.9%→31%)	目的に合ったメモりの取り方や、項目の順序を考えて、グラフを作成することができる。 (22%→24.1%)	表やグラフの数値や項目を入力できる。 (3%→4%)
表現 ・ 発信	グループ ディス カッション	グラフや表の特徴を読み取り、調べたことをもとに自分たちの生活を振り返り、自分の考えを伝えることができる。 (20.3%→12.1%)	グラフや表の特徴を読み取り、調べたことをもとに自分の考えを伝えることができる。 (18.6%→48.3%)	グラフや表の特徴を読み取り、調べたことを伝えることができる。 (28.8%→19%)	グラフや表を使って、調べたことを伝えることができる。 (32.2%→20.7%)

## 9. 指導に当たって

本学年の児童は、2年までに、分類整理したことを簡単な表を用いて表したり、絵や図などを用いた簡単なグラフに表したりする経験をしてきている。

本単元では、これらの学習をもとにして、さらに表を用いる能力を伸ばすとともに、棒グラフや2次元の表を導入し、身の回りにある事象について、目的に応じて観点を決め、資料を分類整理してその結果を表現する態度を育てることをねらいとしている。

「1 せいのりのしかた」では、スポーツごとに好きな人の数を整理する場面を設定し、1次元の表に表す方法を指導する。その中で記録を集計する際に「正」の字を使って整理する方法や、資料の落ちや重なりがないか確かめるために、表に合計欄を設け確認することが重要である。

「2 表の大きさを表すグラフ」では、「好きなスポーツ調べ」の記録を棒グラフに表し、棒グラフのよみ方を扱う。棒グラフのよみ方の学習を進める中で、縦の軸、横の軸の意味や最小目盛りの大きさ、グラフの項目の順序などを取り上げる。その際、棒グラフの学習ではそれぞれの項目の大きさだけをよみ取ることに終始せず、項目間の関係や各項目の相対的な大きさの比較、全体的な傾向をよみ取るようにする。

2次元の表の取り扱い、組ごとの好きなスポーツ調べの表（1次元の表）を考察し、それらの表を一つにまとめると、学年全体の好きなスポーツ調べの表（2次元の表）が出来上がる。2次元の表の作り方といったところには深入りせず、1次元の表と比べてわかりやすくな

った点などを考察できるようにする。また、好きな給食調べの2次元の表をもとに、複数の棒グラフに表す問題を扱う。調べる目的に応じて棒グラフの表し方を変えると、より一層調べたい特徴が分かりやすくなることを二つのグラフを比べることで実感できるようにしたい。

単元の最後には、身の回りのことを調べて、表や棒グラフに表す数学的活動を取り入れる。これまでの学習を生かして、身の回りの事柄について表やグラフに表し、調べたことをもとに自分たちの生活に返したり、具体的に何ができるかを考えたりできるようにしたい。

課題の設定の場面では、グループで話し合い、「給食」「保健室の利用」「図書」の三つのテーマから一つを選ぶようにする。そのテーマの中で、「何のために」「何を調べたいのか」について、具体的な目的を持てるように班で相談するようにする。

情報の収集の場面では、調べたい事柄に合わせて収集の方法を考える。「3年生で好きな給食を調べる」という班はGoogle フォームで行ったアンケート結果を資料として用いるようにする。「けがの様子を知り、けがを減らしたい」という目的の班には、指導者が保健室利用の情報からけがの種類や場所を取り出し、それを資料として配付する。「学級文庫や校内の図書スペースを充実させる。」という目的の班は、読書スペースに置いてほしい本の種類や現在読書スペースに保管されている本の種類についてアンケートをGoogle フォームで行うことで、情報を収集する。

情報の整理分析の場面では、収集したデータから落ちや重なりがないように発表ノートに配付した表に整理する。その上で目的に合わせてどのような表やグラフに表すかをテーマ別グループで考え、Google スプレッドシートを用いてグラフを作成する。グループで同時に作業ができるため、それぞれが役割を分担して作成できる。1めもりの大きさやめもりの最大値、グラフの並び方など、伝えたい内容が分かりやすいかについて、他のグループと助言し合うようにしたい。

表現・発信の場面では、隣のクラスに作成した表やグラフを大型ディスプレイに映しながら、読み取ったことをテーマ別グループごとに発表する。また、作成したポスターを廊下に掲示し、そこからどんなことが考察できるかについて見比べられるようにする。

振り返る場面では、表やグラフに表す良さだけではなく、今回学んだことを今後どんなことに活用できるかを考えるようにしたい。

本学年の児童は、学習アンケート（5月24日実施）によると「分類・整理する」項目において、20.3%が「理由をはっきりさせて、順序を考えて結果を整理することができる」と回答し、28.8%が「順序を考えて、知ったことを整理することができる」と回答している。3年生で初めて棒グラフに触れる段階であることも含めて、個人で適切に情報の分類整理することは、まだ難しいといえる。

また、「表やグラフの作成」においては、39%の児童が「棒グラフのめもりの大きさを必要に合わせて書き込むことができる」、33.9%の児童が「伝えたいことがつたわりやすい棒グラフや表を作ることができる」回答しているが、実際の表やグラフの作成では戸惑う児童も多く、実態と自覚の違いがみられる。

本単元では、以下の過程でICTを活用する。

1. 【課題の設定】導入時での資料等提示（大型プロジェクター）
2. 【情報の収集】Google フォームによるアンケート
3. 【整理・分析】発表ノートによる表の作成

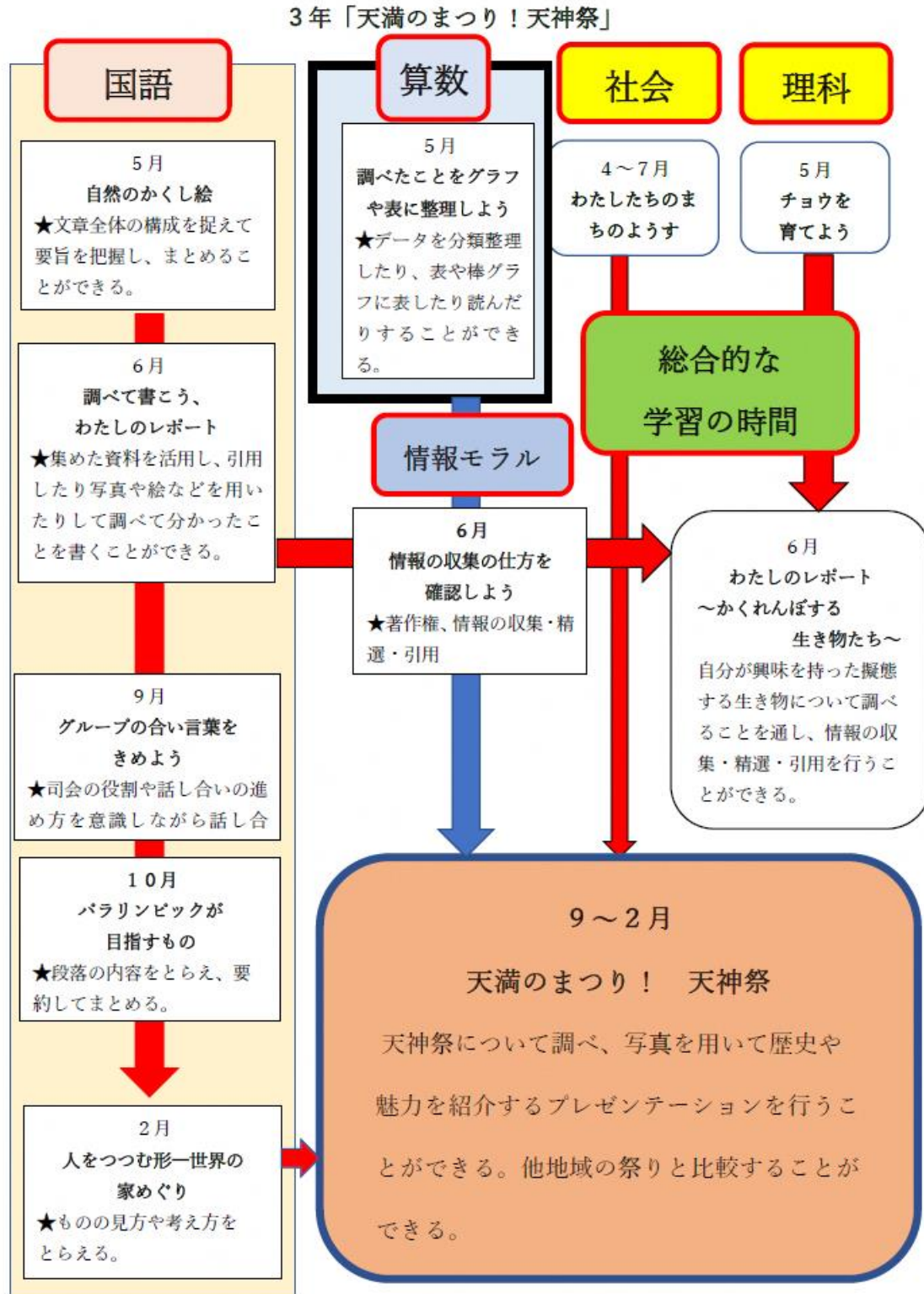
Google スプレッドシートの表・グラフの作成

4. 【表現・発信】 Google スプレッドシートのグラフの提示

5. 【振り返り】 学習を振り返り、まとめる。(スクールライフノート)

Google フォームによる振り返り

#### 10. 他教科との関連



## 11. 本時の学習 (14/17)

### (1) 本時の目標

- ・調べたいことをどのように整理すればいいのかを考えることができる。

### (2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価基準等
出 合 う	<b>【課題の設定】</b> ○前時までの学習を振り返る。	・何を目的に調べるのか、確認できるようにする。	・IWB ・自作資料 (PowerPoint)
気 づ く	○前時までの表では、知りたいことが分かりにくいことに気づく。 ●課題を確かめ、見通しをもつ。	・目指したい情報活用スキルを確認できるようにする。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">             調べたことをどのように整理するか考えよう。           </div>		
考 え る	<b>【整理・分類する】</b> ○前時に作成した表をもとに調べたことをどのように整理するかグループで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・項目の並べ方</li> <li>・その他の表し方</li> </ul> ○発表ノートに配付された2種類の表から適切な表を選び、整理する。 ○目的に応じた適切な表や棒グラフを選ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・表、積み上げグラフ、よこならびグラフ、1本のグラフから適切なグラフを選び、その理由をワークシートに書く。</li> <li>・グループで話し合い、目的に応じた表やグラフの表し方を決める。</li> </ul> ●グループごとに決めたことについて発表する。	・ワークシートに書くようにする。(項目・順序) ・発表ノートを活用し、表を配付する。 ・グループ別に画面比較で提示する。 ・表やグラフの見本を配付し、そこから目的に合ったグラフを選べるようにする。 ・グループ別に画面比較で提示する。	<b>【思考】</b> ・落ちや重なりがないように、手際よく資料の整理をする方法をくふうしている。 SkymenuCloud (発表ノート)

振り返る	<b>【ふり返り】</b> ○学習を振り返る。 ・情報活用スキルチェックを行う。 ・スクールライフノートに、振り返りを 入力する。	・Google フォームの結果 を提示する。 ・次時の活動を確認でき るようにする。	・Google フォー ム ・スクールライ フノート
------	---	---	-------------------------------------

## 板書計画

身のまわりのことを調べて、票やグラフに表し、自分たちの生活を見直そう

6 / 1 **整理・分析** 調べたことをどのように整理するか考えよう。

- ・多いじゅんに  
ならべる。
- ・少ないものは、  
その他にまとめる。
- ・クラスごとに  
まとめる。

テーマ  
給食

テーマ  
読書スペース

テーマ  
保健室

ふり返り

## 12. 本時の学習 (15/17)

### (1) 本時の目標

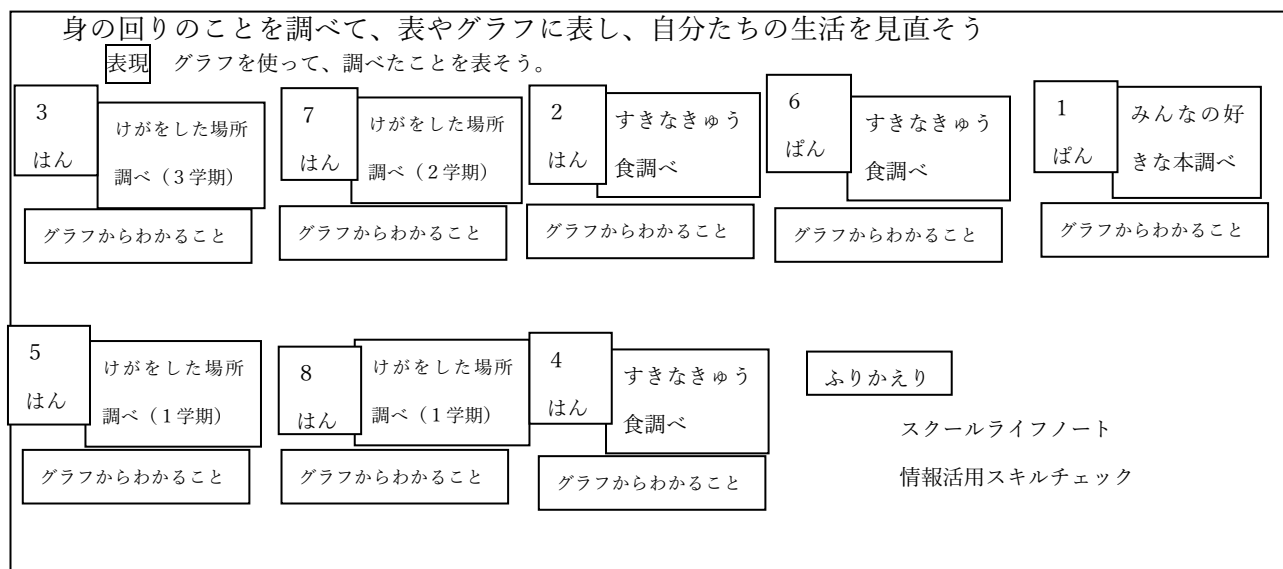
グラフを使って調べたことを表すことができる。

### (2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価基準等
出 会 う	○前時の学習を振り返る。	・ 前時に作成した表を提示する。	・ IWB ・ 自作資料 (PowerPoint)
気 づ く	○めあてを確認する。	・ 目指したい情報活用スキルを確認できるようにする。	
	グラフを使って、調べたことを表そう。		
考 え る	<p><b>【表現】</b></p> <p>○調べたことをグラフに表す。</p> <p>・ 前時に話し合ったことをもとに、グループで協力して表を作成する。</p> <p>○作成したグラフから気づいたことについて話し合う。</p> <p>・ グラフからわかったことについてワークシートに書き、グループで交流する。</p> <p>○グラフからわかることを全体で交流する。</p>	<p>・ グラフ (Google スプレッドシート) を活用してグラフを作成できるようにする。</p> <p>・ 調べたことをもとに自分たちの生活に戻したり、具体的に何ができるかを考えたりできるようにする。</p> <p>・ 大型ディスプレイでグラフを共有しながら、説明できるようにする。</p> <p>・ データの整理の仕方や調べる観点を変え、データを見直すことに興味をもたせる。</p>	<p><b>【知識】</b></p> <p>・ 調べたい資料を集め、表やグラフに表すことができる。</p>
振 り	<p><b>【ふり回り】</b></p> <p>○学習を振り返る。</p>	・ Google フォームの結果を	・ Google フォ

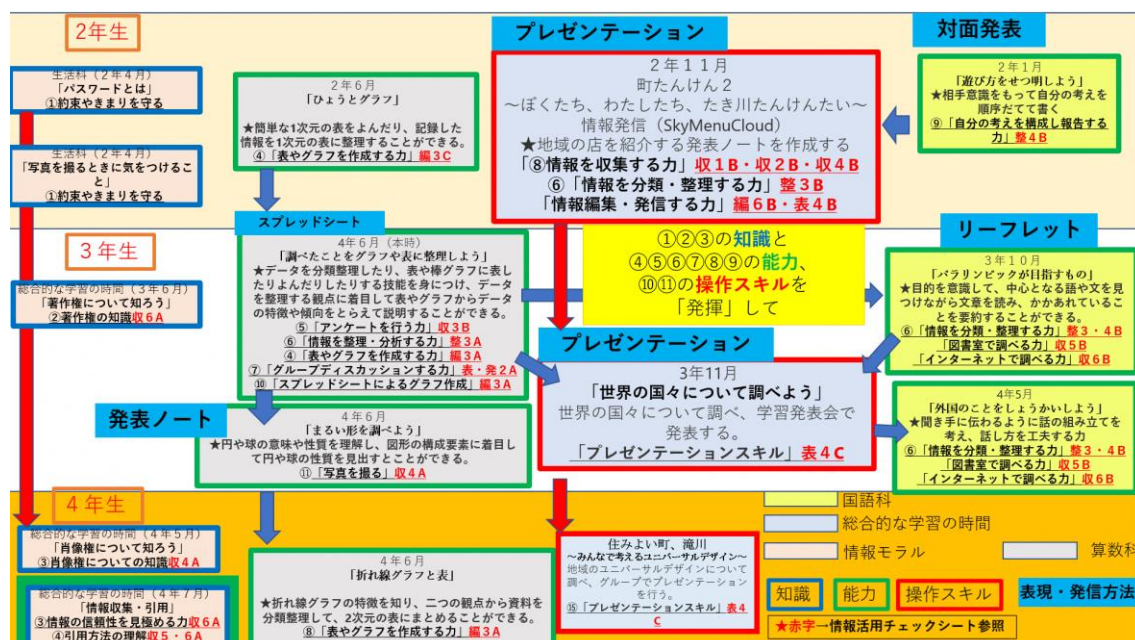
返 る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報活用スキルチェックを行う。</li> <li>・スクールライフノートに、振り返りを入力する。</li> </ul>	提示する。  ・次時の活動を確認できるようにする。	ーム  ・スクールライフノート
--------	---	---------------------------------	-----------------------

## 板書計画



## 13. 情報活用能力の育成と発揮

本単元で必要な情報活用能力は、以下のように発揮されると考える。



## 第4学年 体育科学習指導案

指導者 松田 善行 ・ 畑中 詩苑

6. 日 時 令和5年9月6日(水) 第4時間目(11:45~12:25) 4B

第5時間目(13:25~14:10) 4A

7. 学年・組 第4学年A組(在籍 32名) B組(在籍 34名)

8. 単元名 「高とび」

【学習指導要領コード】 82G02C33140000000 82G02C33200000000 82G02C33300000000

### 4. 単元の目標

(知識・技能)

- ・高跳びの楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、短い助走から踏み切って跳ぶなどの動きを身に付けることができる。

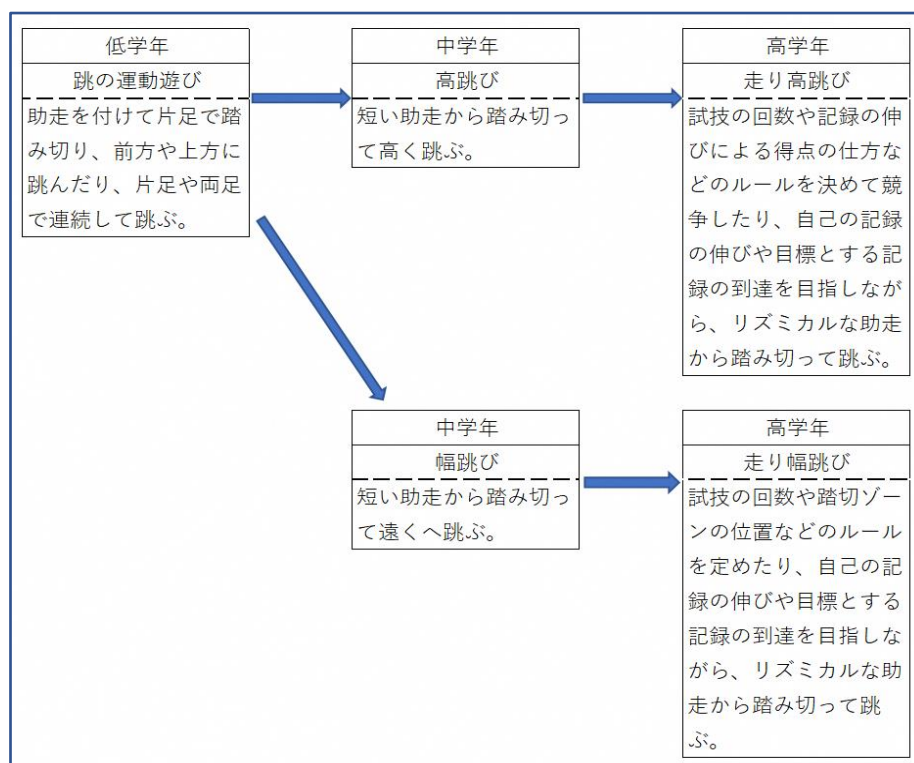
(思考・判断・表現)

- ・自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

- ・高跳びに進んで取り組み、協力して運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができる。

### 5. 内容の関連



## 6. 単元の指導計画

	主な学習活動	主な評価の観点
(1) はじめ(1時間)		
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のねらいを知り、学習の見通しを持つ。</li> <li>・高跳びの学習のきまりを知る。</li> <li>・実際に用具を準備したり跳んだりしながらきまりを確認する。</li> <li>・片付けの仕方を知る。</li> <li>・整理体操</li> <li>・ふりかえる(ワークシート)</li> </ul>	<b>【知・技】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高跳びの行い方を知ることができる。</li> </ul>
(2) なか (5時間)		
2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に気を付けて高く跳ぶ方法を考えたり、試したりする。</li> </ul> <p>① めあての設定 ② 準備運動 ③ 準備・安全確認 ④ 練習・交流</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>予想される活動例</p> <p><b>【練習】</b></p> <p>(S)跳ぶときに足が合わないので、助走を始める位置を変えて試してみよう。</p> <p>(S)踏み切り足がどうしてもひっかかってしまう。上手い人はどのように跳んでいるのかな？</p> <p>(S)振り上げ足が逆になってしまうな。どうすれば正しい順番で跳べるのかな？</p> <p>→(T)低いバーを助走なしで跳んで練習してみてはどうでしょう。跳び箱の上から跳ぶ練習方法もありますよ。</p> <p><b>【交流】</b></p> <p>(S1) どうして私はいつもバーにぶつかるんだろう？</p> <p>(S2) 動画を撮って上手い人と比べてみようか。</p> <p>(S3) 上手い人は振り上げ足から跳んでいるけど、S1さんは逆になっているね。</p> </div>	<b>【知・技】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高跳びの楽しさや喜びに触れ、その動きを身に付けることができる。</li> </ul> <b>【思・判・表】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の能力に適した課題を見つけることができる。</li> <li>・動きを身に付けるための活動の仕方を工夫することができる。</li> <li>・考えたことを友達に伝えることができる。</li> </ul> <b>【態度】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に進んで取り組むことができる。</li> <li>・きまりを守り、協力して運動をしたり、友達の考えを認めたりすることができる。</li> <li>・場や用具の安全に気を付けることができる</li> </ul>



	<p>⑤ ふりかえり(全体)</p> <p>⑥ 整理体操・片付け</p> <p>⑦ ふりかえり(個人：ワークシート)</p>	
--	--	--

<p>4 (B組本時)・5 (A組本時)・6</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に気を付けて高く跳ぶ方法を考えたり、試したりする。他のグループと競い合う。</li> <li>① めあての設定</li> <li>② 準備運動</li> <li>③ 準備・安全確認</li> <li>④ 練習・交流・競争</li> </ul> <div data-bbox="319 504 874 1451" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>予想される活動例</p> <p><b>【練習】</b></p> <p>(S)85 cmもほぼ毎回跳べるようになったから、90 cmにチャレンジしようかな。</p> <p><b>【交流】</b></p> <p>(S1)S2 さんがめあてにしていた、踏み切り位置はちょうどよくなってきたね。</p> <p>(S3)そうだね。けど、途中で歩幅がぎこちなくなることが気になるよ。</p> <p>(S1)じゃあもう少し後ろからスタートしたらどうかな？</p> <p>(S2)板1枚分後ろから試してみるよ。</p> <p><b>【競争】</b></p> <p>(S1)前は4点だったけど、今回は5点とれそう。</p> <p>(S2)私も前より点数が上がりそうだから今回は勝てるかも。</p> <p>(S3)S2 さん、スタート位置に気をつけてね。きっと跳べるよ。</p> </div> <p>⑤ ふりかえり(全体)</p> <div data-bbox="319 1585 874 1859" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>予想される活動例</p> <p>(S1)負けて悔しいけれど、自己ベストが出たのは良かったです。</p> <p>(S2)3班のS5 さんが、すごく上手に跳べるようになっていて驚きました。</p> </div>	<p><b>【知・技】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高跳びの楽しさや喜びに触れ、その動きを身につけることができる。</li> </ul> <p><b>【思・判・表】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の能力に適した課題を見つけることができる。</li> <li>・動きを身に付けるための活動の仕方を工夫することができる。</li> <li>・考えたことを友達に伝えることができる。</li> </ul> <p><b>【態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に進んで取り組むことができる。</li> <li>・きまりを守り、協力して運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたりすることができる。</li> <li>・場や用具の安全に気を付けることができる。</li> </ul>
------------------------------------	--	---

	⑥ 整理体操・片付け ⑦ ふりかえり(個人：ワークシート)	
(3) おわり (1時間)		
7	・これまでの学習を活かし、記録をとる。(記録会) ① めあての設定 ② 準備運動 ③ 準備・安全確認 ④ 記録会 ⑤ ふりかえり(全体) ⑥ 整理体操・片付け ⑦ ふりかえり(個人：ワークシート) ⑧ 単元を通してのふりかえり(スクールライフノート)	<b>【知・技】</b> ・高跳びの楽しさや喜びに触れ、その動きを身につけることができる。  <b>【思・判・表】</b> ・考えたことを友達に伝えることができる。  <b>【態度】</b> ・運動に進んで取り組むことができる。 ・きまりを守り、協力して運動をしたり、友達の考えを認めたりすることができる。 ・場や用具の安全に気を付けることができる。

## 7. 評価基準

	十分満足できる(A)	おおむね満足できる(B)	努力を要する子供の支援例
知・技	・Bに加えて、振り上げ足→踏み切り足の順でバーを跳び越えたり、バーの高さの目標値を超えたりしている。	・高跳びの行い方を知ることができる。 ・高跳びの基本的な動きを身に付けることができる。 <b>【82G02C33140000000】</b>	・振り上げ足と踏み切り足のタイミングが合わない児童には、低いバーで練習をすすめる。 ・竹のバーが怖い児童には、ゴムを使用する。
思・判・表	・Bに加えて、振り返りシートの選択項目③⑤で○(よくできた)を選び、⑤の記述欄に友達に伝えたことや工夫したことを書いている。	・自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。[振り返りシートの選択項目③⑤で○(できた)を選び、⑤の記述欄に友達に伝えたことや工夫したことを	・自己の能力に適した課題を見付けるところに苦戦している児童には、跳んでいる様子を録画し、上手く跳んでいる動画と比較したり、上手く跳ぶためのポイントと照らし合わせたりして課題を見つけられるようにする。

		書いている] 【82G02C33200000000】	
態 度	・Bに加えて、振り返りシートの選択項目②④で○(よくできた)を選んでいる。	・高跳びに進んで取り組み、協力して運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること[振り返りシートの選択項目②④で○(できた)を選んでいる] 【82G02C33300000000】	

#### 8. 単元で発揮したい情報活用スキル

	情報活用スキル	S (名人級)	A (上級)	B (中級)	C (初級)
情 報 収 集	動画を撮る	撮影の目的・条件設定を念頭に置いて撮影し、撮影した動画を確認・管理できる。(24.1%→28.9%)	撮影する動画の用途を意識し、肖像権や撮影禁止場所等に配慮しながら撮影できる。(18.5%→26.9%)	対象物との距離、アングル、明るさ等を意識して撮影できる。(33.3%→32.7%)	安全や故障(落下・水没等)に気を付けて動画を撮ることができる。(24.1%→11.5%)

#### 9. 指導に当たって

##### (1) 児童の実態からみた運動の特性

7月に体育に関する調査を児童64名に実施した。内容と結果は以下の通りです。

1. 体育の学習が楽しい。 とてもそう思う(70%)、だいたいそう思う(30%)、そう思わない(0%)
2. 体育の授業では、自分のめあてをもって学習している。 とてもそう思う(64%)、だいたいそう思う(33%)、そう思わない(3%)
3. 体育の授業では、めあての達成にむけて、考えたり・工夫したりして学習している。 とてもそう思う(69%)、だいたいそう思う(27%)、そう思わない(5%)

事前調査や普段の様子から本学年の児童は、体を動かすことが好きで、体育の学習に関心をもち、楽しみにしている。しかし、休憩時に運動場に出て遊ぶ児童は限られており、また、その遊びの種類も限られている。これは、暑さや、教室から運動場へ移動に時間がかかることから室内遊びが習慣化していることが原因であると考えられる。

また、体力全般が低い傾向にあることも特徴として挙げられる。これは入学時から小学3年生まで新型コロナウイルス感染症により体育やその他の学校生活で多くの制限を受けてきた影響が大きいと考えている。幼児期や低学年時における様々な運動遊びは今後の運動に大きく影響する「運動の畑づくり」ともいえるが、その経験が乏しい。例えば、本校

で週に1度実施される「わくわくタイム(縦割り班活動)」で、ゴム跳びやSケンなど様々な体を動かす遊びができる機会であるが、小学1・2年生は実施されていなかったことなどが挙げられる。

このような児童の実態から、じっくりと「走・跳の運動」に取り組み、充実させることを大切にしたい。中②からは自身の記録を得点化し競争の場を設定していくことで、グループでの協働的な学習が活性化するようにしていきたい。

また、個々が単元序盤の記録からの伸びに注目できるようにして、粘り強く練習に取り組み成長したと捉えられるようしたり認め合ったりできるようにしたい。

## (2) 授業デザインと評価の在り方

はじめの段階では、場の準備の仕方や高跳びのねらいやきまり(助走は5歩まで、膝を柔らかに曲げて足で着地)、安全に関する事項を確認しながら指導する。

なか①の段階では、指導者がより高く跳ぶための合理的な方法や練習の仕方を教える。そして指導者は、児童のいい動きやいい練習方法を見付けてその姿を広め、自己の課題を見出だせなかったり練習方法が解決に向かえていなかったりする児童には助言をしていきたい。また、NHKforSchool「はりきり体育ノ介」などのデジタルコンテンツも利用し、いい動きについて理解できるようにしたい。

なか②の段階では、チームを編成し、グループで協働して技能を高められるようにしたり、他のグループとの競争の場を設定したりしたい。競争の場を設定することで、チーム内で記録を伸ばし合おうとする意識を高めることを期待したい。

まとめの段階では、記録大会を行う。そして、本単位を通して一人一人が伸ばしてきた自身の記録にも着目できるようにしたい。

評価については日々のワークシートを活用し、児童一人ひとりの成長を丁寧に見取っていききたい。

### 【楽しい体育】を目指して

本学年では年度当初から「楽しい体育」を目指して授業をデザインしてきた。本単位では「楽しさ」を次のように分析している。

- ・跳び越える楽しさ(体を動かす楽しさ)
- ・リズムカルに助走したり跳んだりする楽しさ(体を動かす楽しさ)
- ・グループで個々の課題を共有し互いにアドバイスしたり励まし合ったりする楽しさ(協力する楽しさ)
- ・どうすれば高く跳べるのか自身の課題を見出だしたり解決の方法を考えたりする楽しさ(考える楽しさ)
- ・高く跳ぶための方法がわかる楽しさ(わかる楽しさ)
- ・課題解決のために工夫したことがうまくいく楽しさ(工夫がうまくいく楽しさ)
- ・自身の成長を捉える楽しさ(できる楽しさ)
- ・競争する楽しさ(競い合う楽しさ)
- ・友達の成長を捉える楽しさ(チームの成長の喜び)

これらの「楽しさ」や「喜び」が味わえるように授業をデザインしていきたい。

本単元では、以下の過程で ICT を活用する。

【課題の設定】 毎時間、授業導入時にその時間の目標の共有(大型モニター・プロジェクター)

【情報の収集】 運動の様子を動画撮影する(学習者用端末)

インターネットを活用した運動のポイントの情報収集

【整理・分析】 運動の様子を撮影した動画を再生し課題を分析する(学習者用端末・教員用端末)

【まとめ・表現】 動画から分析した課題や改善が見られた点を編集して表現する(学習者用端末・教員用端末・大型モニター・プロジェクター)

スクールライフノートで単元のふりかえり

## 10. 本時の学習

### (1) 本時の目標 B組

- ・課題の解決の仕方を考え、自分の課題に応じた練習の場や方法を選ぶことができる。
- ・高跳びの楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身につけることができる。
- ・高跳びに進んで取り組み、協力して運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができる。

### (2) 本時の展開 (4/7)

	学習活動	指導上の留意点	評価・ICT
はじめ	○準備運動をする。 ○用具を準備する。  ○安全確認をする。	・適切に準備運動できているかを確認する。 ・本日のタイムスケジュールを児童と共に確認する。 ・準備を終えた班の安全確認をする。	・ IWD ・ PowerPoint ・ 自己の能力に適した課題を見つけることができる。
	<div>どうすれば高く跳べるかを考えたり、試したりしよう</div>		
なか	○個人のめあて設定		
	○課題別学習(練習) ① グループ内で個々のめあてを共有する。  ② グループで競争に向けて練習する。	・ 課題やその解決方法を意識して練習できているかを確認する。解決の方法が持ていない児童には助言する。  ・ よいところを見つけたり,アドバイスしたりするよう助言する。  ・ 足を上手く上げられない児童には跳び箱の1段目を踏み切り位置に置き練習するよう助言する。  ・ 強くふみ切ることを意識して練習したい児童には、踏み切り板を使って練習するよう助言する。  ・ 助走の間隔を確かめたい児童には、ケンステップ用の用具を使用するよう助言する。	・ おいかけ再生 ・ 動画撮影 ・ 高跳びの楽しさや喜びに触れ、その動きを身につけることができる。

	<p>○兄弟班ごとに競争する</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; text-align: center;"> <p>A班 対 B班 F班 対 G班 C班 対 D班 対 E</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じグループの友達を励ましたり、応援したりするよう助言する。</li> </ul>	
ま と め	<p>○全体でふりかえる</p> <p>○整理体操</p> <p>○ふりかえり(個人)</p> <p>○片付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果や課題の共有ができるようにする。</li> <li>・好事例の紹介</li> <li>・安全に気を付けて片付けを行えるようにする。</li> <li>・本時の学習を自身のめあてにそってふりかえり、成果やこれからの課題について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IWD</li> </ul>

(1) 本時の目標 A組

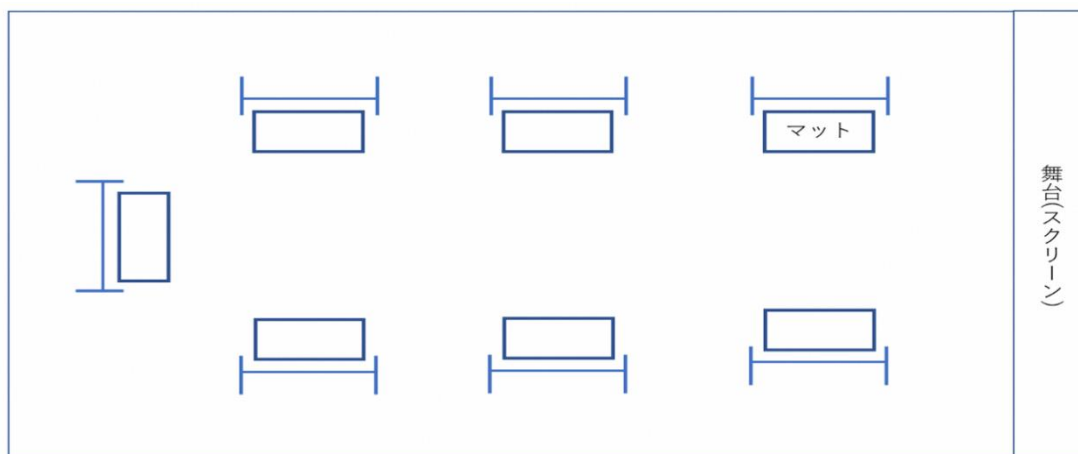
- ・課題の解決の仕方を考え、自分の課題に応じた練習の場や方法を選ぶことができる。
- ・高跳びの楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身につけることができる。
- ・高跳びに進んで取り組み、協力して運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができる。

(2) 本時の展開 (5/7)

	学習活動	指導上の留意点	評価・ICT
はじめ	<p>○準備運動をする。</p> <p>○用具を準備する。</p> <p>○安全確認をする。</p>	<p>・適切に準備運動できているかを確認する。</p> <p>・本日のタイムスケジュールを児童と共に確認する。</p> <p>・準備を終えた班の安全確認をする。</p>	<p>・IWD</p> <p>・PowerPoint</p> <p>・自己の能力に適した課題を見つけることができる。</p>
	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; text-align: center;"> <p>どうすれば高く跳べるかを考えたり、試したりしよう</p> </div>		
	○個人のめあて設定		
なか	<p>○課題別学習(練習)</p> <p>① グループ内で個々のめあてを共有する。</p> <p>② グループで競争に向けて練習する。</p> <p>○グループごとに競争する</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(例)前半</p> <p>A班 対 C班</p> <p>B班 対 E班</p> <p>D班 対 F班</p> <p>後半</p> <p>B班 対 F班</p> <p>C班 対 E班</p> <p>A班 対 G班</p> </div>	<p>・課題やその解決方法を意識して練習できているかを確認する。解決方法が持っていない児童には助言する。</p> <p>・競争にあたっていない班は、応援したり、よいところを見つけたりするよう助言する。</p>	<p>・おいかけ再生</p> <p>・動画撮影</p> <p>・高跳びの楽しさや喜びに触れ、その動きを身につけることができる。</p>

ま と め	○全体でふりかえる	・ 成果や課題の共有ができるようにする。 ・ 好事例の紹介	・ IWD
	○整理体操をする。	・ 安全に気を付けて片付けを行えるようにする。	
	○ふりかえり(個人)	・ 本時の学習を自身のめあてにそってふりかえり、成果やこれからの課題について考える。	
	○用具を片付ける。		

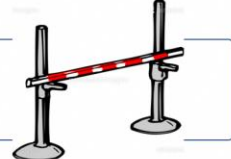
#### 会場レイアウト



振り返りシートと競争で使用する得点表

高とび 4年 組 番( )

① 高とびの行い方を知り、短い助走から強くふみ切って、高くとぶ。  
② 練習のしかたや競争のしかたを考え、工夫する。  
③ 考えたり、工夫したりしたことを友達や先生に伝える。  
④ きまりを守り、友達とはげまし合いながら運動する。



① 月 日 今日の自分のめあて	② 月 日 今日の自分のめあて	③ 月 日 今日の自分のめあて	④ 月 日 今日の自分のめあて
① わさの理解 (●・○・△) ② 跳ぶ・安全に着地 (●・○・△) ③ 友達に伝える・工夫(●・○・△) <small>伝えたり工夫したりしたことをめあては書く</small>	③ 自分にあった方法を選ぶ (●・○・△) ④ 助け合い・協力 (●・○・△) ⑤ 友達に伝える・工夫(●・○・△) <small>伝えたり工夫したりしたことをめあては書く</small>	① わさの理解 (●・○・△) ② 跳ぶ・安全に着地 (●・○・△) ③ 友達に伝える・工夫(●・○・△) <small>伝えたり工夫したりしたことをめあては書く</small>	③ 自分にあった方法を選ぶ (●・○・△) ④ 助け合い・協力 (●・○・△) ⑤ 友達に伝える・工夫(●・○・△) <small>伝えたり工夫したりしたことをめあては書く</small>
⑥ 今日のふりがえり(③回のめあてがあれば、それも書く)	⑥ 今日のふりがえり(③回のめあてがあれば、それも書く)	⑥ 今日のふりがえり(③回のめあてがあれば、それも書く)	⑥ 今日のふりがえり(③回のめあてがあれば、それも書く)

わざチェック	◎ Very good!	○ Good!	Go for it
助走	ちょうどいいスタート位置を見つける	毎回同じリズムでとべる	練習中
ふみ切り	足のうら全体を使って、強くふみ切る	ふみきり足が決まっている	練習中
ふみ切り位置	ちょうどいいふみきり位置を見つける	支柱に近くならない	練習中
バーをどびこえる	ふみ切り足とふり上げ足を高く上げる	ふり上げ足を高く上げる	練習中
着地	ひざまやわらかく曲げて、足から着地する	手前のマットの中央に足から着地する	練習中
準備・片付け	とぶ前やとぶ後にマットやバーの安全をたしかめる	友達と協力して安全に準備・片付けをする	練習中

「ふみきり足」は、あとに上げる足

「ふり上げ足」は、はじめに上げる足

⑤ 月 日 今日の自分のめあて	⑥ 月 日 今日の自分のめあて	⑦ 月 日 今日の自分のめあて	⑧ 月 日 今日の自分のめあて
① わさの理解 (●・○・△) ② 跳ぶ・安全に着地 (●・○・△) ③ 友達に伝える・工夫(●・○・△) <small>伝えたり工夫したりしたことをめあては書く</small>	③ 自分にあった方法を選ぶ (●・○・△) ④ 助け合い・協力 (●・○・△) ⑤ 友達に伝える・工夫(●・○・△) <small>伝えたり工夫したりしたことをめあては書く</small>	① わさの理解 (●・○・△) ② 跳ぶ・安全に着地 (●・○・△) ③ 友達に伝える・工夫(●・○・△) <small>伝えたり工夫したりしたことをめあては書く</small>	③ 自分にあった方法を選ぶ (●・○・△) ④ 助け合い・協力 (●・○・△) ⑤ 友達に伝える・工夫(●・○・△) <small>伝えたり工夫したりしたことをめあては書く</small>
⑥ 今日のふりがえり(③回のめあてがあれば、それも書く)	⑥ 今日のふりがえり(③回のめあてがあれば、それも書く)	⑥ 今日のふりがえり(③回のめあてがあれば、それも書く)	⑥ 今日のふりがえり(③回のめあてがあれば、それも書く)

( )番 名前 ( )		-10cm	-5cm	目標	+5cm	+10cm	+15cm	+20cm	+25cm
記録		cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm
1回目	得点	1	2	3	4	5	6	7	8
2回目	得点	1	2	3	4	5	6	7	8
3回目	得点	1	2	3	4	5	6	7	8
4回目	得点	1	2	3	4	5	6	7	8
5回目	得点	1	2	3	4	5	6	7	8
6回目	得点	1	2	3	4	5	6	7	8
7回目	得点	1	2	3	4	5	6	7	8
8回目	得点	1	2	3	4	5	6	7	8
9回目	得点	1	2	3	4	5	6	7	8
10回目	得点	1	2	3	4	5	6	7	8
11回目	得点	1	2	3	4	5	6	7	8
12回目	得点	1	2	3	4	5	6	7	8

## 第5学年 社会科学習指導案

指導者 坂口 朋子

9. 日 時 令和5年5月10日（水）第5時間目（13:25～14:10）

10. 学年・組 第5学年A組（在籍 24名）

3. 小单元名 高い土地の暮らし

【学習指導要領コード】 8220253112000000, 8220253113000000, 8220253122000000

### 4. 小单元の目標

我が国の国土の様子について、国土の地形に着目して地図帳や地球儀、各種資料で調べ、まとめることで高い土地の自然などの様子や高い土地の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の地形の概要や、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

### 5. 単元の構成 『わたしたちの国土』（東京書籍 5年）

小单元名	学習内容
1 世界の中の国土 (4時間)	① 世界の中の日本 ② 世界の国々と日本の位置 ③ 多くの島からなる日本 ④ 領土をめぐる問題・表にまとめる
2 国土の地形の特色 (3時間)	④ 空から国土をながめてみよう ⑤ 国土のさまざまな地形 ⑥ 日本の川や湖の特色・白地図にまとめる
3 高い土地の暮らし (4時間) ⇨低い土地の暮らし（選択）	③ 山のすそ野に広がる高原 ④ 荒れ地を耕し、広い畑に ⑤ 夏に新鮮なキャベツを届ける（本時） ⑥ 自然のめぐみを生かす・キャッチコピーをつくる
4 国土の気候の特色 (3時間)	① 四季の変化がある日本の気候 ② つゆと台風、季節風 ③ 地域によって異なる気候・ノートにまとめる
5 あたたかい土地の暮らし (4時間) ⇨寒い土地の暮らし（選択）	① 沖縄県の家や暮らしのくふう ② あたたかい気候に合った農業 ③ あたたかい気候を生かした観光と沖縄の課題 ④ 古くからの文化を守る・表にまとめてキャッチコピーをつくる

6. 小単元の観点別評価規準【学習指導要領コード】

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国土の地形などについて地図帳や地球儀、各種資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子や高い土地の人々の生活を理解している。【8220253112000000】</li> <li>・調べたことを図表や文などにまとめ、高い土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。【8220253113000000】</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国土の地形などに着目して、問いを見出し、国土の自然などの様子や高い土地の人々の生活について考え表現している。【8220253122000000】</li> <li>・我が国の位置や地形の側面から、我が国の国土の自然環境の特色を考えたり、高い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考えたりし、適切に表現している。【8220253122000000】</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い土地の暮らしについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</li> </ul>

7. 知識の構造図

中心概念	社会的事象	用語・語句	学習過程
<p>嬬恋村の人々は、高い土地に適応して生活しており、高原野菜の生産や季節ごとの気候を生かした観光産業を行うことを通して、高原の自然環境を生かした暮らしをしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・群馬県嬬恋村は、千メートル以上ある高原で、周囲は大きな山に囲まれている。東京に比べ、一年中気温が低く、夏は特に涼しい。</li> </ul>	<p>キャベツ畑 火山 高原</p>	つかむ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火山灰が積もってできた土地で野菜づくりには不向きだった嬬恋村を人々が土地を改良して夏の涼しい気候を生かしたり、交通網の発達を生かしたりしながら全国一のキャベツの生産地にしていった。</li> </ul>	<p>高原野菜 火山灰 土地を耕す</p>	調べる
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏秋キャベツの生産は群馬県が最も多い。夏涼しい高原の気候を生かして、春から秋までの長い期間、何回にも分けて出荷している。(本時)</li> </ul>	<p>促成栽培 抑制栽培 予冷庫 嬬恋村のキャベツづくり</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嬬恋村には、高い土地ならではの楽しみが季節ごとにあり、自然や気候の特色を暮らしに生かしている。</li> </ul>	<p>スキー マラソン ハイキング スケートの授業</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ことば」を生かしながら、新聞にまとめる。</li> </ul>		まとめる

## 8. 小単元で発揮したい情報活用スキル

(数値は、事前の情報活用スキルチェック結果 4月28日実施)

	情報活用スキル	S (名人級)	A (上級)	B (中級)	C (初級)
整理・分析	分類・整理する	根拠を明確にし、順序立てて整理することができる。(19%)	順序を考えて情報を整理することができる。(38.1%)	情報を内容ごとに仲間別に分類することができる。(14.3%)	必要な情報を選択することができる。(28.6%)
	図解する	思考ツールを活用して、整理する視点を設け、共通点や相違点を明らかにすることができる。(4.5%)	思考ツールを活用して原因や結果などの因果関係や時系列がわかるように図に示すことができる。(9.5%)	集めた情報を思考ツールにまとめることができる。(47.6%)	集めた情報を自分なりに図などにまとめることができる。(38.1%)
表現・発信	グループディスカッション	グループの同意形成を図りながら、結論を見出すことができる。(28.6%)	自分や他者の意見を取り入れながら結論へつなげることができる。(33.3%)	他者の意見に対応して、自分の意見を言うことができる。(9.5%)	課題(テーマ)に沿って自分の意見を言うことができる。(28.6%)

## 9. 指導に当たって

本小単元は、学習指導要領の内容(1)ア(イ)「我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること」及び(ウ)と、(1)イ(イ)「地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然環境から見て特色ある地域の人々の生活をとらえ、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること」に対応している。事例としている群馬県嬭恋村は、標高1000m～1500mの高い土地にキャベツ畑が広がる。人々は火山灰土の原野を開拓し、高地寒冷の気候の土地で栽培できる野菜の生産王国になるまで、自然条件と戦ってきた。現在では、厳しい自然環境を観光に生かすまでになっている。総合的な学習の時間「天川村に行こう！」では、林間学習(6月末)の目的地、奈良県天川村について課題を見つけ、情報を収集し、整理分析してまとめ、発信するという学習活動を行う予定である。天川村は、紀伊山地の中央部に位置し、村の面積の4分の1が吉野熊野国立公園に指定されている。大峯山脈を擁し、人々は古から山岳や奥深い自然に対し畏敬の念を抱き続けてきた。2004年には、ユネスコ世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」として登録されている。近畿南部にありながら、高所であるため冷涼な気候は、夏は避暑地、秋は紅葉の名所として観光客を集めるが、冬季は極めて寒冷である。「地形や気候を生かした特色のある人々のくらし」という点において、本小単元の学習で学んだことから嬭恋村と天川村を比較すること

で総合的な学習の時間につなげていきたい。

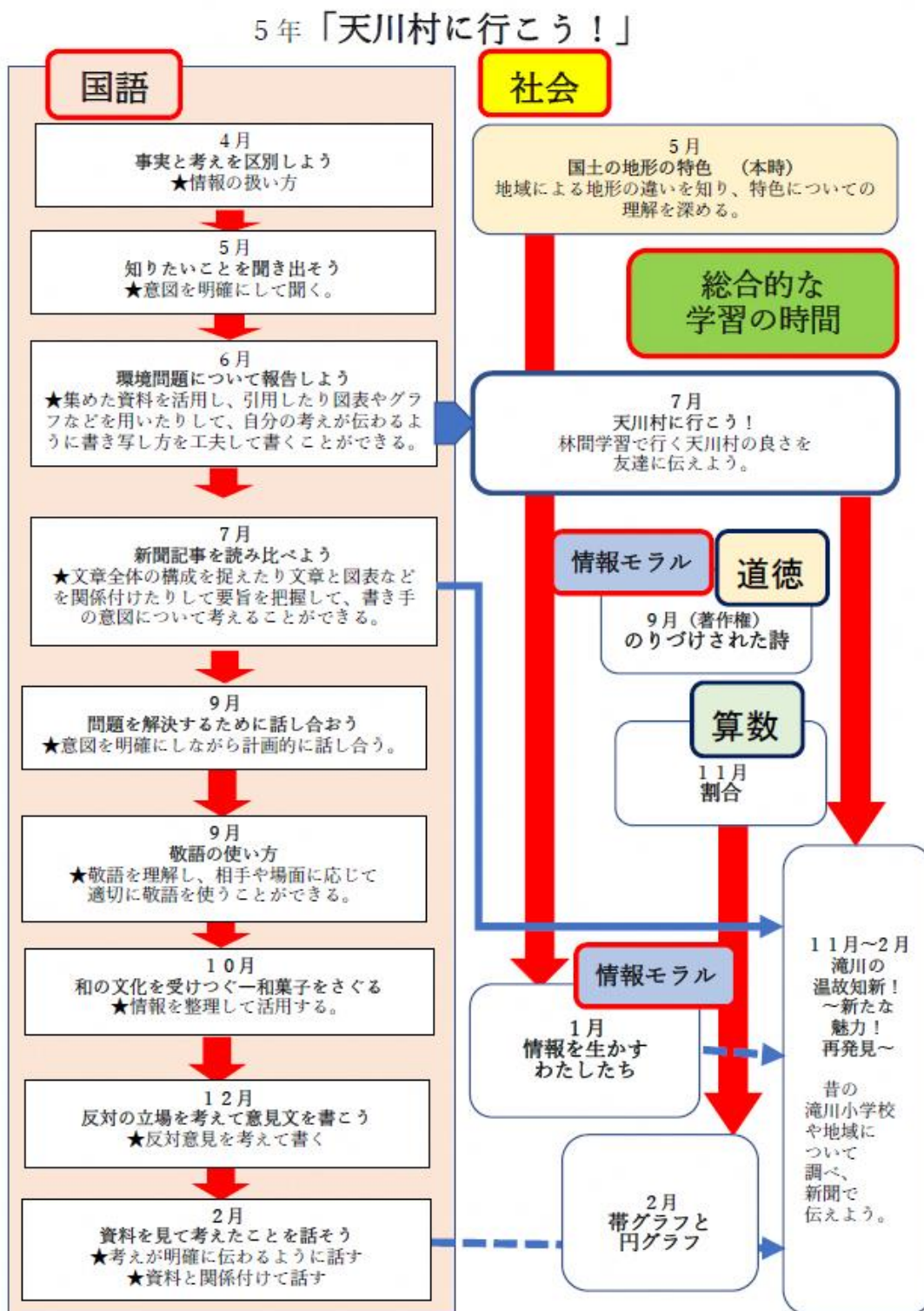
本学級の児童は、学習アンケート（4月17日実施）によると「学習の中でなぜを見つけようとしている」に対して95%、「調べたいことをいろいろな方法で調べようとしている」に対して90%、「相手に伝わるように工夫して話したり書いたりしている」に対して85%、「学習したことを自分の生活や次の学習に生かそうとしている」に対して95%が肯定的回答であった。このように、課題解決に対して主体的に取り組む姿勢を見せている児童は多い。しかし、自分の考えをまとめ、表現することに対して苦手意識をもつ児童が数人いる。また、事前の情報活用スキルチェックによると、収集した情報を整理して思考ツールなどの図にまとめることに対して情報活用スキルを高めたいと感じている児童が多い。グループ討議の際には、自分の考えを発信するが、友達の考えを取り入れて考えをまとめたり、結論を見出したりすることに約4割の児童が不安を感じている。

そこで、本小単元では、以下の学習過程でICTを活用する。

- 1 【課題の設定】導入時での資料等提示（大型プロジェクター）
- 2 【情報の収集】・調べる段階での児童用端末へ資料配付(Google Classroom)  
資料からわかった事実と自分の考えを書き分ける。  
(本時では、反転学習を取り入れる。)
- 3 【整理・分析】学び合う段階での考えの共有 (Google Jamboard)  
時間の経過による変化に着目することで、変化した原因・変化した結果・人々の生活や産業への影響について図や思考ツールに整理する。
- 4 【表現・発信】情報を組み合わせ、課題に対する考えを表現する。
- 5 【振り返り】 学習を振り返り、まとめる。(スクールライフノート)

本小単元の終末には、孺恋村の魅力を新聞にまとめ、孺恋村の人々のくふうを知って驚いたことや感心したことについて隣のクラスの友達と交流する。

10. 他教科との関連



# 11. 本時の学習（3/4）

## （1）本時の目標

婦恋村の人々が、高い土地の涼しい気候を生かし、ほかの産地と時期をずらしてキャベツを出荷する工夫をしていることを捉えることができる。

## （2）本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価基準等
<b>【課題の設定】</b> ○前時の学習を振り返る。  ○キャベツ生産の手順を確認し、本時のめあてをつかむ。	・村の人々の工夫や努力によってキャベツ栽培がさかんになったことを確認する。 ・婦恋村が「高原野菜の村」として全国に知られていることを想起できるようにする。	・IWB ・自作資料 (PowerPoint)
<div>婦恋村のキャベツづくりには、どのようなふうがあるのだろうか。</div>		
<b>【情報の収集】</b> ○資料をもとに、気付いたことをグループで話し合う。 ① 写真「キャベツ生産の手順」 ② 図「妻恋村のキャベツ暦」 ③ グラフ「季節ごとのキャベツの産地」 ④ 「JA 婦恋村の黒岩さんの話」  ○全体で交流する。	・事実から気付いたことについて話し合うようにする。 ① 写真「土づくり」…たい肥、機械 「植え付け」…苗を1本ずつ丁寧に 「広がる畑」…機械で消毒 「収穫」…人の手、明け方から 「予冷库」…厳しい品質検査 「出荷」…いたまないように、低温輸送車 ② 図「妻恋村のキャベツ暦」 ・資料の読み取りに困っている児童には、縦軸で見るように助言する。 ・「時期をずらす」「長い間収穫」 「一つの時期に一つの手順」 ③ グラフ「季節ごとのキャベツの産地」 ・春キャベツや冬キャベツの産地である愛知県、千葉県は低い土地 ④ 「JA 婦恋村の黒岩さんの話」 ・くふう、協力、美味しい ・児童の考えをキーワードを中心に	・Google Classroom (資料配付)

<p><b>【整理・分析】</b></p> <p>○交流したことをもとに、孺恋村のキャベツ生産のさまざまなふうについて考える。</p> <p>○まとめたことについて、全体で交流する。</p> <p><b>【表現・発信】</b></p> <p>○夏秋キャベツ日本一の理由について考える。</p> <p>○ペア、全体で交流する。</p> <p><b>【ふり返し】</b></p> <p>○本時の学習を振り返る。</p>	<p>板書にまとめるようにする。</p> <p>・グループで話し合い、Jamboardにまとめる。(クラゲチャート)</p> <p>・グループの考えを根拠を明確にして発表し合うようにする。</p> <p>・これまでの学習を振り返り、ランキングで表すようにする。</p> <p>・根拠を明確にして話し合うようにする。</p> <p>・本時の学習を振り返り、次々になげるようにする。</p>	<p>・Google Jamboard</p> <p><b>【知技】</b></p> <p>・ノートの記事内容や発言内容から「必要な情報を読み取り、高原の気候を生かしてキャベツを生産していることや、新鮮で安全な野菜を出荷するためのさまざまな工夫をしていることを理解しているか。」</p> <p>・スクールライフノート</p>
---	---	--

## 板書計画

5/10

【課題の設定】 婦恋村のキャベツづくりには、どのようなふうがあるのだろうか。

【情報の収集】

- ① 写真「キャベツ生産の手順」
- ② 図「妻恋村のキャベツ暦」
- ③ グラフ「季節ごとのキャベツの産地」
- ④ 「JA 婦恋村の黒岩さんの話」

【整理・分析】

夏秋キャベツ日本一の婦恋村

- ・何回も収穫、夏から秋まで
- ・機械と人の手を合わせて丁寧に
- ・気候を生かして
- ・協力して
- ・努力、明け方から、どんな思い？
- ・新鮮な状態で出荷

【表現・発信】

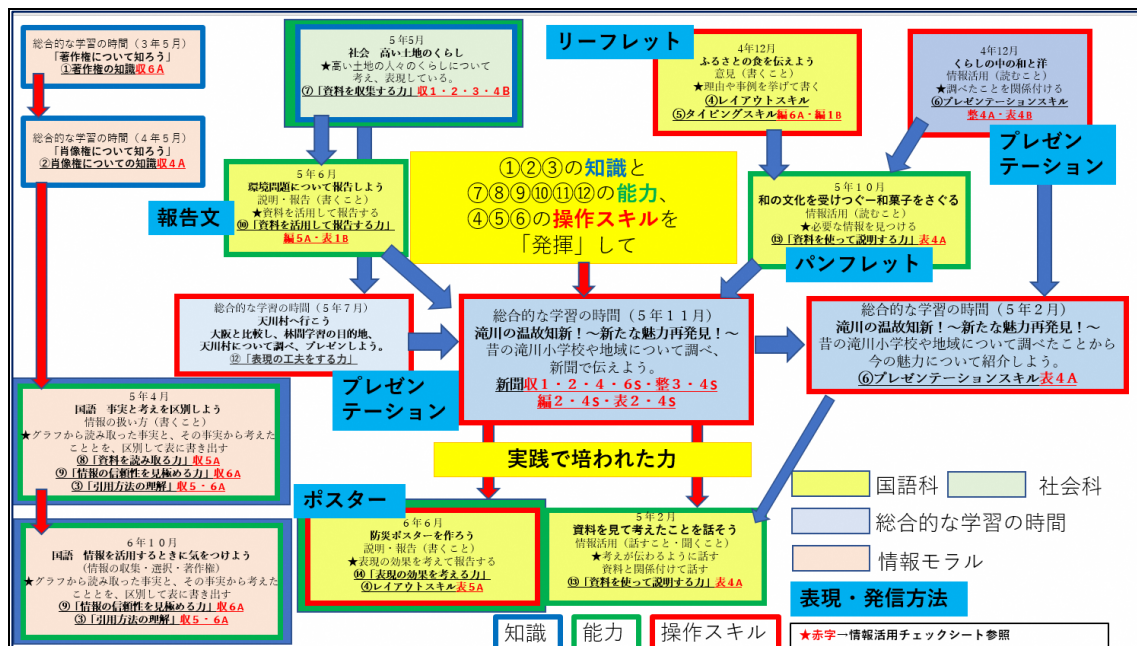
夏秋キャベツ日本一の婦恋村、その理由は？

BEST 3

【ふり回り】 スクールライフノート

## 12. 情報活用能力の育成と発揮

本単元に必要な情報活用能力は、以下のように発揮されると考える。



## 第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

指導者 橋本 純子・井藤 誠紀

1. 日 時 令和5年10月20日（金）第4時間目（11：40～12：25）

第5時間目（13：50～14：35）

2. 学年・組 第6学年A組（在籍 31名） B組（在籍 31名）

3. 単元名 白浜へGO！

【学習指導要領コード】82M02L7610000000 82M02L7620000000 82M02L7630000000 8250253412100000

### 4. 単元目標

- ・修学旅行の目的地である南紀白浜と居住地である大阪市を観光の視点から調べたり体験したりすることを通して、それぞれの特色に関心をもち、伝えようとしている。【発信力】
- ・観光地としての視点から、南紀白浜と大阪市の特色について、情報を集めている。【調査力】
- ・観光地としての南紀白浜と大阪市を比較することを通して、地域のよさや特色を考え、その根拠となる情報を集め選んでいる。【組み合わせる力】
- ・観光地としての南紀白浜と大阪市のよさや特色について、友達の考えを聞き、自分の考えと比べ、他者に質問したり感想を伝えたりして、自分の考えを見直そうとしている。【協働力】
- ・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフや表を選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察している。【算数的考察力】

### 5. 本単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地としての南紀白浜と大阪市の特色を考え、相手が納得できるように情報を的確に使って伝えている。【発信力】【82M02L7610000000】</li> <li>・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフや表を選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察している。【算数的考察力】【8250253412100000】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地としての南紀白浜と大阪市の特色について、課題にあった情報を集めている。【調査力】</li> <li>・自分の課題を知らせるための情報を精査し、必要な情報を組み合わせる。【組み合わせる力】【82M02L7620000000】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地としての南紀白浜と大阪市の特色を比較して調べ、よさを伝えるための学習をする見通しをもつことができる。【計画力】</li> <li>・課題を解決するために、友達の意見を進んで取り入れようとしている。【協働力】【82M02L7630000000】</li> <li>・同じ課題の友達と情報を共有し、価値あるアイデアを生み出そうとしている。【創造力】</li> <li>・他地域に関心をもち、次への課題を見つけようとしている。【課題発見力】</li> </ul>

## 6. 単元で身に付けたい情報活用スキル

※ ( ) 内は、取り組み前の達成度を自己評価した数値

	情報活用スキル	S (名人級)	A (上級)	B (中級)	C (初級)
収 集	インターネット で調べる	引用するサイトの 信頼性を見極 めるとともに、 ほかのサイトの 情報と比較して 判断することが できる。 (20%)	引用するサイトの 出所元を意識し、 その信頼性を見極 めることができ る。(46%)	キーワードを入れ て検索した結果か ら必要な情報を選 択することができる。 (30%)	ブラウザを起動し て検索したい情報 のキーワードを入 力することができる。 (4%)
整 理 ・ 分 析	比較する	2つ以上の出所 の異なる情報に ついて、相違点 や共通点を根拠 を示して説明す ることができる。 (14%)	2つ以上の出所の 異なる情報につ いて、相違点や共 通点を説明でき る。(38%)	2つ以上の出所の 異なる情報につ いて、相違点や共 通点を見つけるこ とができる。 (40%)	2つの情報を並べ ることができる。 (8%)
	図解する	思考ツールを活 用して、その結 果から、新たな 気づきや疑問点 を見つけること ができる。 (18%)	思考ツールを活用 して、整理する視 点を設け、共通点 や相違点を明らか にすることができる。 (36%)	集めた情報を支持 された思考ツール にまとめることが できる。(34%)	思考ツールを理解 している。(12%)
	検証する (情報の信頼 性)	発信者・URL・ 日時・広告の有 無等から情報の 信頼の程度につ いて説明でき る。(14%)	発信者・URL・日 時・広告の有無等 から情報の信頼性 について判断す ることができる。 (46%)	発信者・URL・日 時・広告の有無等 を確認できる。 (18%)	どこか入手した情 報かがわかる。 (22%)
	分類する	データを正しく 分析した上で根 拠を明確にし、 順序立てて分類 することができる。 (20%)	データをもとに根 拠を明確にし、順 序立てて分類す ることができる。 (30%)	根拠をもとに、情 報を内容ごとに分 類することができる。 (44%)	必要な情報を選 択することができる。 (6%)

編集	ポスター形式	相手意識を大切にし、複雑にならないよう、最も伝えたい言葉や画像を精選し、表現することができる。(20%)	主張点を明確にするために調査した内容や自分の思いを表現することができる。(30%)	見出しやタイトル、説明の文章、グラフ・表、文字の大きさ、色使いなどレイアウトを考慮することができる。(40%)	伝えたい内容を選び、紙面のレイアウトを考慮することができる。(10%)
表現・発信	グループディスカッション	グループの同意形成を図りながら、結論を見出すことができる。(18%)	自分や他者の意見を取り入れながら、結論へつなげることができる。(42%)	他者の意見に対応して、自分の意見を言うことができる。(28%)	課題(テーマ)に沿って自分の意見を言うことができる。(12%)
	ポスターセッション	視聴者と双方向にコミュニケーションをとりながら発表できる。(12%)	視聴者の視線・表情・しぐさ等に反応しながら発表できる。(26%)	身ぶり手ぶりなどを入れて、気持ちをこめて伝えることができる。(34%)	スライドやポスターに書かれたことを読み上げながら発表することができる。(28%)

## 7. 指導にあたって

本単元は、修学旅行先である南紀白浜と居住地である大阪市を調べ、比較することを通して、それぞれの特色を知ることによって地域のよさについて考え、地域の一員としての自覚を育むことをねらいとしている。

本学年の児童は、5年生の総合的な学習の時間「滝川の温故知新！～新たな魅力、再発見！～」では、自分達の住んでいる地域の移り変わりや継承していることについて新聞記事にまとめ、発信する学習活動に取り組んだ。この学習を通して、昔の学校や地域の様子について調べたことと、昔の様子について詳しい人に聞いたことを組み合わせて必要な情報を集めたり選んだりする力を身に付けることができた。6年生になり、国語科や社会科及び総合的な学習の時間において、探求課題を解決するために情報を収集し、まとめ、発信する活動を重ねてきた。(※P.6 他教科との関連 参照) ここでは、南紀白浜と大阪市を比較し、それぞれのよさについて考えるためには、自分の趣味嗜好だけではなく、信頼性の高いデータを整理し分析することで、主張や判断に説得力を持たせることができると考える。データを的確に使って、南紀白浜と大阪市のよさを伝えることができるようにしたい。【調査力】【発信力】

国語科「友達の意見を聞いて考えよう」「話し合って考えを深めよう」では、話し手の考えと自分の考えを比べたり、立場を明確にしながら話し合ったりする活動を通して、友達の意見を取り入れようとする態度が身に付いてきている。この単元では、課題を解決するために、自分の考えと友達の考えを比較し、共通点や相違点を見出すことで、説得力のある発表を生み出す力を付けたい。【協働力】【創造力】

また、算数科「資料の調べ方」では、資料の代表値としての平均値、最頻値、中央値の意味を知り、統計的な考察をしたり表現をしたりする学習に取り組んだ。課題を解決する際に必要な記録や資料を収集し、多角的な視点から統計的なデータを活用することが大切であることに気付くようにしたい。

【組み合わせる力】

指導にあたって、以下のような手立てで学習を進める。

### ① データの活用

算数科「資料の調べ方」で学習した統計的な探求プロセスを大いに活用させたい。「問題を見つける」→「調べ方を計画する」→「データを集める」→「データを分析する」→「結論を考える」のプロセスで学習を進める。その際用いるデータは公的機関などの信頼できるところが発表している数字を使うようにする。

### ② 体験学習

修学旅行先である南紀白浜について、図書資料やインターネットで調べた内容だけではなく、現地での体験でしか得られない実感を伴った情報や感想を得られるようにする。

そのために、事前学習の際に、南紀白浜と大阪市が「観光地」であるという視点から「動物園」「水族館」「科学館」「遊園地」などのカテゴリーごとのグループに分かれて学習を進める。5年生へのポスターセッションの際には、現地で見聞きした情報や感想も加えて、発信することができるようにしたい。

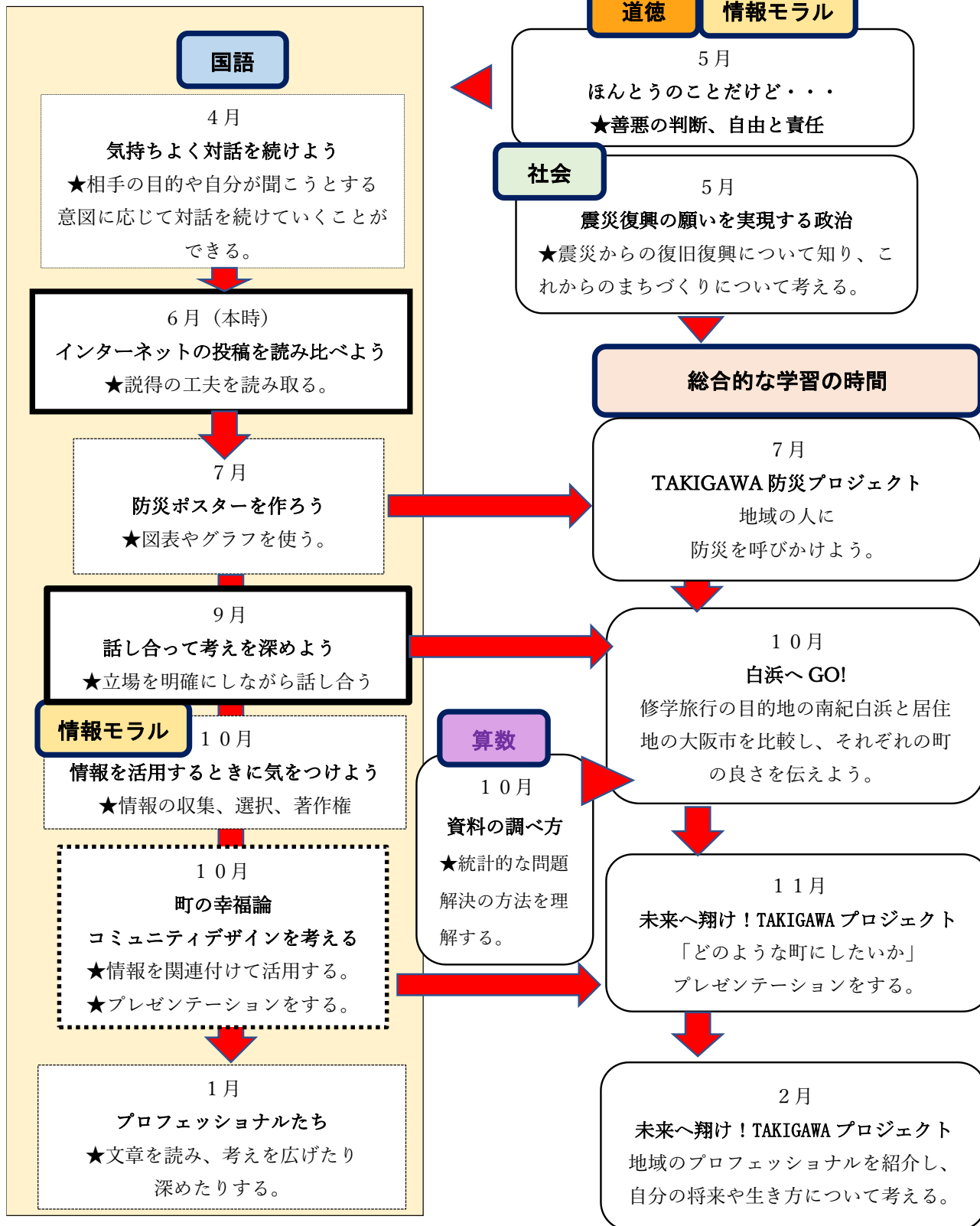
### ③ 他教科と連携したカリキュラム

自分の考えを相手に伝えるときに、数字を加えると、事実を具体的に理解することができ、説得力が増す。算数科「資料を調べ方」で学習した統計的な探求プロセスで、集めたデータを分析し、結論を出せるようにしたい。

また、南紀白浜と大阪市の特色を比較する活動においては、国語科「話し合って考えを深めよう」で身に付けた「立場を明確にしながら話し合う力」を発揮できると考える。さらに、ポスターの作成に当たっては、「防災ポスターを作ろう」で身に付けた「表現の効果を考えて報告する力」「図表やグラフを使う力」を発揮し、5年生へのポスターセッションでは、相手が納得できるように伝えることができるようにする。

また、11月に学習する国語科「町の幸福論」では、資料を基に自分たちの町の未来について考え、プレゼンテーションをする活動につなげ、継続的に教科横断的に学習を展開したい。

6年「未来へ翔け！TAKIGAWA プロジェクト」



第一次「つかむ」段階では、修学旅行先である南紀白浜に対するこれまでのイメージを想起したり、インターネットの資料から調べたりする活動を通して、「観光地」としての南紀白浜に着目し、もっと知りたい、調べてみたい課題を設定できるようにする。そして、居住地である大阪市にも、観光地としての一面があることを押さえ、それぞれの地域の特色を比較することで、それぞれのよさを理解することができるということを確認する。また、来年修学旅行に行く5年生にポスターセッションをすることを伝え、目的意識や見通しをもって一連の活動に取り組むことができるようにしたい。また、毎時間の振り返りを積み重ねることで、活動の中での他者との関わりや自身の気付きの変化をとらえ、主体的な学習を進めていきたい。

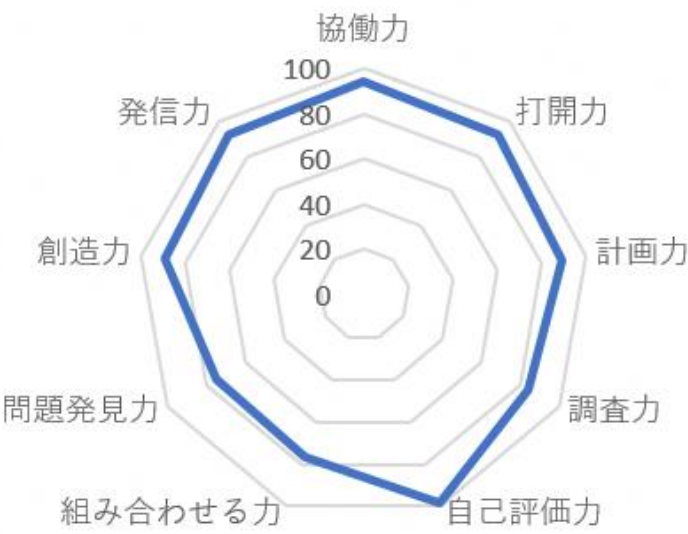
第二次「さぐる」段階では、児童の興味・関心をもとにグループ編成を行い、南紀白浜と大阪市の特徴について、役割分担して情報収集にあたる。図書資料、インターネットなどを活用する中で、課題解決の方法を選択する力を身に付けさせたい。次に、収集した情報を整理・分析して「南紀白浜と大阪市のどちらが観光地として魅力があるか」について、自分の立場を決める。その際、自分の考えに説得力をもたせるために、表やグラフ（棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ、帯グラフ）を活用するといった統計分析の活動を取り入れる。一度同じ立場同士で話し合い、よりよい話し合いになるように内容を精査する。その後グループごとに「南紀白浜」「大阪市」の立場に分かれて、どちらが観光地として魅力があるかを話し合う。話し合いでは、思考ツールを活用し、グループの考えを上手くまとめることができるようにしたい。さらに、この話し合いから気付いたことを学級全体で共有できるようにしたい。

第三次「深める」段階では、第二次で見出した南紀白浜のよさを伝えるために、修学旅行で体験したことも加えてポスターを作るという課題を設定する。グループで役割を分担して、内容、キャッチコピー、割付、資料の選定などを工夫しながら活動を進める中で友達との関わりが増し、つながりが深まっていくと考えられる。また、ポスターセッションをすることで、相手がより納得できるように双方向のコミュニケーションをとりながら発表する力を身に付けられるようにしたい。発表後には、協働的な活動で分かったことを振り返り、次時への見通しと追及課題をもつことができるようにしたい。

第四次「生かす」段階では、学習への有用感をもたせ、これまで学んだことをもとに、自分たちが住む地域のよさや課題、今後の自分の生き方や地域との関わり方について考えるようにする。これまでのプロセスを振り返る中で、達成感や一体感、高揚感を交流し、できるようになったことやわかったこと、もっとやってみたいことを伝え合う。また、次に学習する国語科「町の幸福論」では、地域の未来について考え、プレゼンテーションを行うことを伝え、地域の一員としての自覚を高め、地域のためにできることを考えていこうとする態度を育んでいきたいと考える。

6. 児童の意識調査

児童実態調査アンケート【％】  
肯定的回答率（そう思う＋だいたいそう思う）



1：そう思う    2：だいたいそう思う    3：あまり思わない    4：思わない    （％）

つけたい力	質 問	1	2	3	4
自分から動く力	友達と協力して学習している。	51.8	42.9	5.4	0
	問題にあきらめずに最後まで取り組んでいる。	50	42.9	7.1	0
	次のことを見通して学習に取り組んでいる。	32.1	57.1	10.7	0
学習したことを上手く使う力	調べたいことを色々な方法で調べようとしている。	42.9	41.1	12.5	3.6
	学習したことで自分ができたこと、できなかったことが分かっている。	51.8	46.6	0	1.8
	学習したことを自分の生活や次の学習にいかそうとしている。	30.4	46.4	16.1	7.1
最後まで考え続ける力	学習の中で、「ふしぎだな」「なぜ」を見つけようとしている。	32.1	42.9	16.1	8.9
	理由をはっきりさせて自分の考えをもっている。	41.1	48.2	7.1	3.6
	相手に伝わるように工夫して話したり、書いたりしている。	48.2	44.6	7.1	0

本学年の児童は、学習アンケート（9月25日実施）によると、「友達と協力して学習している」に対して94.7%、「問題にあきらめずに最後まで取り組んでいる」に対して92.9%、「次のことを見通して学習に取り組んでいる」に対して89.2%が肯定的回答であった。このように、友達と協力して活動したり、粘り強く学習に取り組んだりできている児童は多い。しかし、学習したことを自分の生活や次の学習に生かそうとしたり、学習の中で不思議なことや疑問を見つけようとしたりできている児童は肯定的回答は75%で他に比べて多いとは言えない。

本単元では、以下の学習過程でICTを活用する。

- 1【課題の設定】導入時での資料等提示（IWB）
- 2【情報の収集】調べる段階でのインターネットの活用（Google 検索）
- 3【整理・分析】学び合う段階では、思考ツールを活用し、考えを共有・整理する。（Google Jamboard）
- 4【表現・発信】プレゼンテーションの作成（Microsoft PowerPoint）

5 【振り返り】学習を振り返り、まとめる。(スクールライフノート Google Forms)

本単元の終末には、南紀白浜についてのポスターセッションを5年生に向けて行う。修学旅行に行って体験したことの感想や考えも踏まえて、まとめるようにする。

8. 学習計画 (全17時間)

単 元 名	時	◇主な学習活動 ◆指導上の留意点・支援	評価規準	ICT 活用 ※情報活用スキル
第 一 次  南 紀 白 浜 っ て ど ん な と こ ろ ？ っ か む	1	<p>・修学旅行先である、南紀白浜について知っていることや調べたことを交流して、学習課題をつかむ。</p> <p>◇インターネットを活用して、南紀白浜について知っていることを確かめたり、調べたりしたことを思考ツール（イメージマップ）に記入していく。</p> <p>◇「白浜へGO!」の学習計画を立てる。</p> <p>◆最終的に、来年修学旅行に行く5年生に、目的地である南紀白浜の魅力を伝えるために、ポスターセッションをすることを知らせる。</p>	<p>・観光地としての南紀白浜と大阪市を比較して調べ、よさを伝えるための学習をする見通しをもつことができる。</p> <p>【計画力】</p>	<p>・Microsoft PowerPoint ・IWB ・Google Jamboard ・Google Forms ・スクールライフノート</p> <p>※情報収集 (インターネットで調べる)</p>
	2	<p>◇南紀白浜について調べたことを班で交流し、自分たちの居住地である大阪市との共通点や相違点について話し合う。</p> <p>◆南紀白浜と大阪を比較してスライドにまとめるようにする。</p>		



	8	<p>◇前時の話し合いをもとに、観光地としての魅力を伝えるために、データの活用の仕方や説明の仕方をブラッシュアップする。</p> <p>◆次時の話し合いがスムーズに進行できるように計画を確認できるようにする。</p>	<p>・同じ課題の友達と情報を共有し、価値あるアイデアを生み出そうとしている。</p> <p>【創造力】</p>	
	9 本 時 ②	<p>・南紀白浜と大阪市を比較して、それぞれの観光地としての魅力について、伝え合う。</p> <p>◇「観光地としての南紀白浜と大阪市のどちらが観光地として魅力があるか」について、自分の立場を明らかにして話し合う。</p> <p>◇思考ツール（マトリックス、ベン図など）を使用して、それぞれの魅力を整理するようにする。</p> <p>◇話し合いを振り返り、新たに気付いたことや考えたことを交流する。</p> <p>◆相手の発言を踏まえて応答したり、異なる意見を取り入れたうえで自分の意見を考え直したりして、考えを深めることができるようにする。</p>	<p>・観光地としての南紀白浜と大阪市を比較して地域の特徴を考え、相手が納得できるように情報を的確に使って伝えている。</p> <p>【発信力】</p>	<p>・ Microsoft PowerPoint</p> <p>・ IWB</p> <p>・ Google Forms</p> <p>・ スクールライフノート</p> <p>※表現・発信 (グループディスカッション)</p>

<p>第三次</p> <p>伝えよう、「南紀白浜」(深める)</p>	<p>・これまで学習してきたことをもとに観光地としての南紀白浜について、グループでポスターを作り、ポスターセッションを行う。</p> <p>10 ◇観光地としての南紀白浜の魅力についてグループでポスターにまとめる。</p> <p>11</p> <p>12</p> <p>13 ◆内容、キャッチコピー、割付、資料の選定などを工夫しながら分担してまとめることができるようにする。</p> <p>14 ◇ポスターセッションの練習をしたり、ポスターを推敲したりする。</p> <p>◆どのように話せば伝わりやすいかを考えるようにする。</p> <p>15 ◇練習で気付いたことを表現し、学年内で交流する。</p> <p>16 ◇5年生に、南紀白浜についてのポスターセッションを行う。</p> <p>◆修学旅行に行って体験したこと、感想や考えも踏まえて伝えることができるようにする。</p>	<p>・課題を解決するために、友達の意見を進んで取り入れようとしている。</p> <p>【協働力】</p> <p>・地域のよさや特色を考え、相手が納得できるように情報を的確に使って伝えている。</p> <p>【発信力】</p>	<p>・Microsoft PowerPoint</p> <p>・IWB</p> <p>・Google Forms</p> <p>・スクールライフノート</p> <p>※情報編集 (ポスター形式)</p> <p>※情報発信・表現 (ポスターセッション)</p>
<p>第四次</p> <p>学んだことを伝え合おう(生かす)</p>	<p>17</p> <p>・これまでの学習を振り返る。</p> <p>◇今までの活動を通して気付いたことを振り返り、これからの自分に生かそうとする。</p>	<p>・他地域に関心をもち、次への課題を見つけようとしている。</p> <p>【課題発見力】</p>	<p>・Google Forms</p> <p>・スクールライフノート</p>

## 7. 本時①の学習 (7/17)

### (1) 本時の目標

南紀白浜・大阪市の観光地としての魅力について収集した情報から、一番伝えたい情報を選ぶことができる。

### (2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価基準等
1. 本時の学習課題を確認する。	・ 前時までの学習を振り返り、本時のめあてと単元の学習の中での位置付けを確認する。	・ IWB ・ Microsoft PowerPoint (自作)
「南紀白浜」「大阪市」の観光地としての魅力について、一番伝えたいことを選ぼう。		
2. グループで話し合い、「南紀白浜」「大阪市」の魅力の中で、一番伝えたいことを選ぶ。	・ 根拠となる資料を活用して、考えるようにする。 ・ 「南紀白浜派」「大阪市派」に分かれ、観光地としての魅力について一番伝えたい情報を選び思考ツール（ピラミッド・チャート）にまとめるようにする。	※情報整理・分析 (分類する) ・ Google Jamboard
3. 話し合ったことをペアグループで共有し、疑問点や改善点を交流する。	・ 伝えたい情報に説得力をもたせるために相応しいデータが使えているかどうかについて話し合うようにする。	自分の課題を知らせるための情報を精査し、必要な情報を組み合わせて使っている。 【組み合わせる力】
4. 全体で交流する。	・ 分類した根拠を明確にして説明することができるようにする。	・ IWB
5. 本時の学習を振り返る。 情報活用スキルチェック スクールライフノート	・ 次時の活動を知らせる。	・ Google Forms ・ スクールライフノート

### (3) 板書計画

10/20 白浜へGO!

㊦「南紀白浜」「大阪市」の観光地としての魅力について、一番伝えたいものを選ぼう。

#### 市場

とれとれ市場

黒門市場

#### 植物園

南方熊楠記念館

咲くやこの花館

#### 花火

白浜花火フェスタ

#### 遊園地

アドベンチャーワールド

USJ

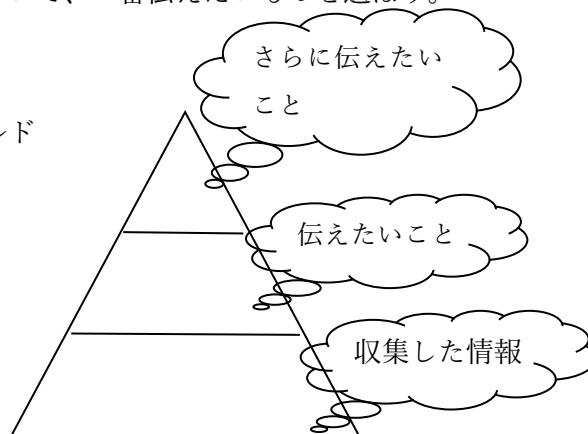
#### 水族館

京都大学白浜水族館

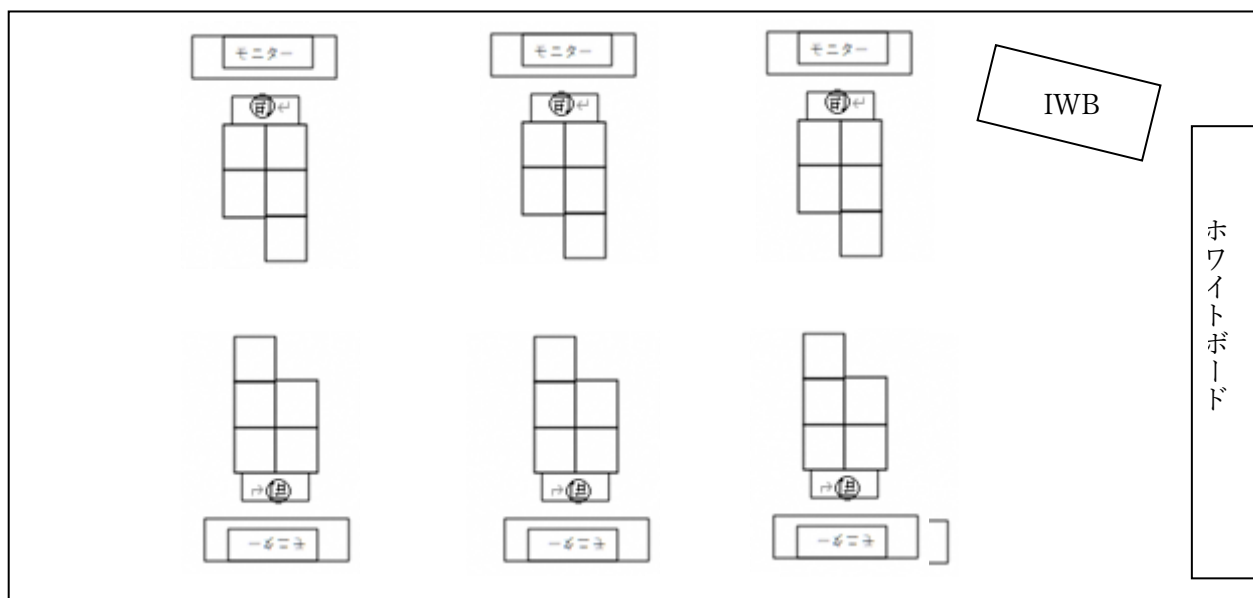
海遊館

#### 科学館

エネルギーランド



### (4) 場の設定



## 9. 本時②の学習 (9/17)

### (1) 本時の目標

南紀白浜と大阪市を比較して、それぞれの観光地としての魅力について伝え合うことができる。

### (2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価基準等
1. 本時の学習課題を確認する。	・ 前時までの学習を振り返り、本時のめあてと単元の学習の中での位置付けを確認する。	・ IWB ・ Microsoft PowerPoint (自作) ・ Jamboard、Microsoft PowerPoint
南紀白浜と大阪市の観光地としての魅力を伝え合おう。		
2. テーマ別グループで「話し合いの進め方」に沿って話し合う。 ①話題を確かめる。 「南紀白浜と大阪市のどちらが観光地として魅力があるか」 ②それぞれの立場の考えを聞き合う。 ③それぞれの立場から質問し合う。 ④それぞれの立場について整理する。 ⑤話し合いをまとめる。	・ 「話し合いの進め方」に沿って話し合えるようにする。 ・ 前時にまとめたピラミッド・チャートをもとに選んだ魅力を伝え合うようにする。 ・ 魅力の根拠となるデータを活用して話し合うようにする。 ・ 納得できるところがあるかどうかを考えながら聞くようにする。 ・ 質問をしたり、課題を伝え合ったりできるようにする。 ・ 司会者は、自分が選択した思考ツール（マトリックスやベン図）を活用して、それぞれの魅力について整理し、話し合いをまとめるようにする。 ・ 司会がまとめた資料を IWB に投影する。	<b>※情報発信・表現</b> (グループディスカッション) ・ 地域のよさや特色を考え、相手が納得できるように情報を的確に伝えて伝える。 <b>【発信力】</b> ・ Microsoft PowerPoint ・ Google Jamboard  ・ IWB
3. 話し合ったことを全体で共有する。	・ 次時の活動を知らせる。	・ Google Forms ・ スクールライフノート
4. 本時の学習を振り返る。 情報活用スキルチェック スクールライフノート		

### (3) 板書計画

10/20 白浜へGO! ㊦南紀白浜と大阪市の観光地としての魅力を伝え合おう。

「南紀白浜と大阪市のどちらが観光地として魅力があるか」

南紀白浜派

大阪市派

話し合いの進め方

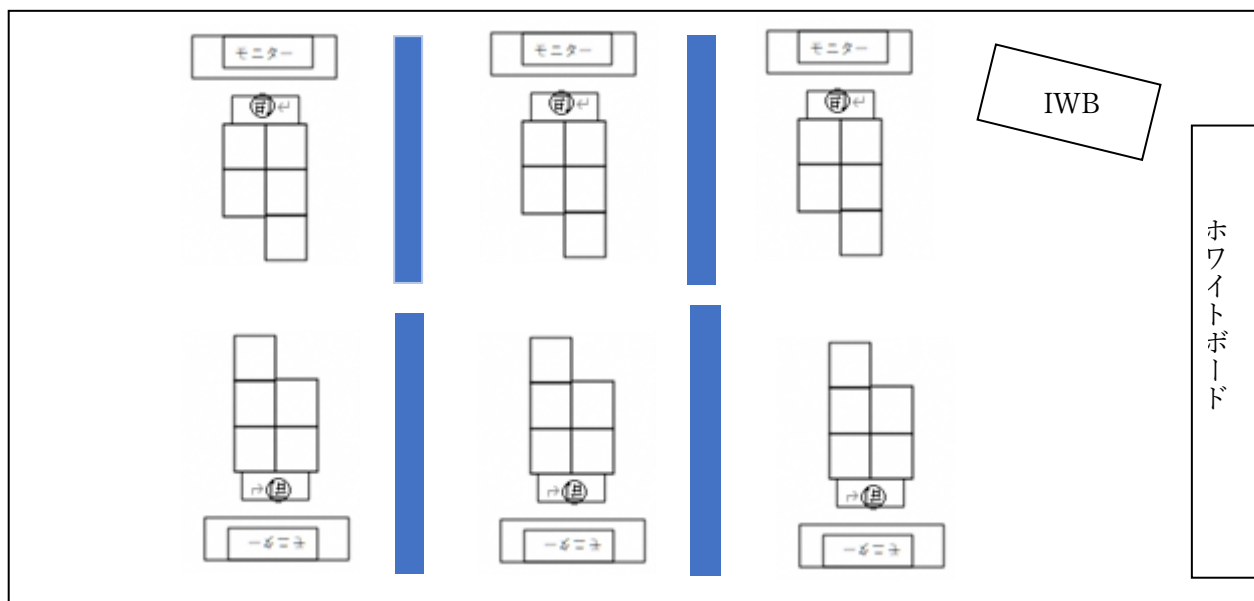
- ① 話題を確かめる。
- ② 考えを聞き合う。
- ③ 質問し合う。
- ④ 整理する。
- ⑤ 話し合いをまとめる。

アドベンチャーワールド  
アドベンチャーワールド  
京都大学白浜水族館  
エネルギーランド  
白浜花火大会  
白浜プリン

遊園地  
動物園  
水族館  
科学館  
花火  
お土産

USJ  
天王寺動物園  
海遊館  
大阪市立科学館  
なにわ淀川花火大会  
くいだおれ太郎プリン

### (4) 場の設定



## 10. 情報活用能力の育成と発揮

本単元で必要な情報活用能力は、以下のように発揮されると考える。

